

第4期三豊市生涯学習推進計画

令和8年3月

三豊市教育委員会

はじめに

三豊市は、急激な人口減少と高齢化の進行、そして地域コミュニティの変容という大きな構造的変化の渦中にあります。このような時代において、市民一人ひとりが変化に対応し、豊かで充実した人生、すなわち「Only One」の自己実現を達成するためには「生涯にわたる学び」が不可欠な基盤となります。

本市はこれまでも生涯学習の推進に努めてまいりましたが、これまでの計画評価と市民アンケートを通じて、施設の老朽化と維持管理費の増大、そして市民の地域貢献意欲と活動機会の結びつきの弱さという、複数の構造的な課題が残されていることが明らかになっています。

この度策定する「第4期三豊市生涯学習推進計画」は、三豊市公民館基本計画、三豊市図書館基本計画、三豊市子ども読書活動推進計画、三豊市文化芸術振興計画の4計画を統合した、本市における生涯学習の総合的な指針として位置づけます。

本計画の目的は、市民一人ひとりが、自身の知識や能力を高めるために自発的に学び続けることができ、その学習成果が個人の自己実現に留まらず、「協働・共助」の精神を通じて、地域課題の解決といった具体的な地域貢献や地域活動に還元される仕組み（市民力・経験を地域に活かす仕組み）づくりを推進することにあります。そして、この学びと地域貢献の好循環を持続させるため、限られた資源の中で最大限の効果を引き出すよう、「施設の縮小・統合を前提とした機能の充実」＝「縮充」という発想のもと、施策を推進してまいります。

本計画が、市民と行政が一体となり、心一つに「One MITOYO」の未来を自ら築く「市民力」を育むための力強い羅針盤となることを目指します。



令和8年3月

三豊市教育委員会教育長 大原 一仁

目次

第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 生涯学習とは	2
3. 計画の位置づけと統合	3
第2章 生涯学習を取り巻く状況	5
1. 人口の推移	5
2. 拠点施設の利用状況	6
3. 児童生徒を取り巻く状況	6
4. スポーツ・文化活動の状況	7
第3章 計画策定に向けた調査結果	8
1. 調査の目的	8
2. 調査の概要	8
3. 報告書の見方	8
4. 調査結果	9
5. 結果から見える課題	29
第4章 基本理念と基本目標	30
1. 基本理念	30
2. 基本目標	30
3. 施策の体系	31
第5章 主要施策の方向性	32
施策1：生涯学習推進の環境づくり	32
施策2：家庭教育力の向上	37

施策 3：文化・芸術活動の促進	39
施策 4：文化財の保護・継承.....	40
施策 5：学習成果の地域社会への還元と推進体制の強化	42
施策 6：市民スポーツ・レクリエーション活動の充実	43
第 6 章 計画の推進体制と進行管理	45
1. 推進体制	45
2. 進行管理と評価	45
資料編	47
1. 三豊市生涯学習推進計画策定委員会 委員名簿	47
2. 計画策定の経緯	48

第 1 章 計画策定にあたって

1. 計画策定の趣旨

近年、少子高齢化や情報化の進展、社会構造の変化により、誰もが生涯にわたり学び続けることの重要性が一層高まっています。生涯学習は、個々の人生を豊かにするだけでなく、その成果を地域づくりに生かすことで、持続可能な社会の発展に寄与する基盤となります。

本市では、これまで「第 3 期三豊市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習を通じた人材育成と、学びの成果を地域社会に還元する仕組みづくりに取り組んできました。今回の計画では、「生涯にわたって学び、学習成果を地域に生かせる持続可能な環境づくり」を基本理念として、すべての市民に学ぶ権利を保障し、学習機会の充実と多様なニーズに応える環境整備を進め、学びを通じて市民力を最大限に引き出すことを目指します。

また、施設の老朽化や利用者ニーズの多様化に対応するため、本計画では「縮充（しゅくじゅう）」の考え方を導入します。これは、施設の量（数）を維持することに固執せず、既存施設の利活用や施設統合などを行いながら、機能の充実を図る方針です。学びの場を質的に高め、市民が安心して学び続けられる環境を確保することで、地域全体の学習基盤を強化します。

本計画は、三豊市第 2 次総合計画の将来像「One MITOYO～心つながる豊かさ実感都市～」の実現に寄与する新たな指針として策定しました。市民と行政が協働し、学びを地域の力に変えることで、誰もが生涯にわたり学び続けられる社会を築いていきます。

2. 生涯学習とは

生涯学習とは、人々が生涯にわたり、自発的に学び続ける活動であり、その成果をより豊かな生活や、活力ある社会づくりに役立てる活動のすべてを指します。学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動、趣味・レクリエーション活動など、あらゆる場と方法での学習を含みます。

(1) 生涯学習の理念と本市の位置付け

本計画において生涯学習は、「人生100年時代」を迎え、社会の予測不能な変化に対応するために、市民一人ひとりが自己を成長させ続けるための基盤として位置づけられます。

また、生涯学習は、単に個人の教養を高めることに留まらず、学習を通じて得た知識や技能、そして他者との交流で培った豊かな人間性を、地域社会へ還元することにその真の価値があります。本計画は、市民の自己実現と、その成果が地域社会の活力となる「協働・共助」の文化を醸成する活動として、生涯学習を推進します。

(2) 生涯学習の範囲と構成

生涯学習の範囲は多岐にわたり、市民の主体的な活動によって構成されます。

学校教育：義務教育や高校教育など、体系化された教育機関での学習。

社会教育：公民館や図書館など、社会教育施設で行われる学習活動。

文化活動：文化財の保存・継承、芸術の創造活動、歴史学習など。

スポーツ活動：生涯スポーツ、レクリエーション活動、健康づくり。

家庭教育：家庭内での学習、子育てに関する学習、多世代間での経験の継承。

その他：企業内研修、通信教育、ボランティア活動、趣味など。

3. 計画の位置づけと統合

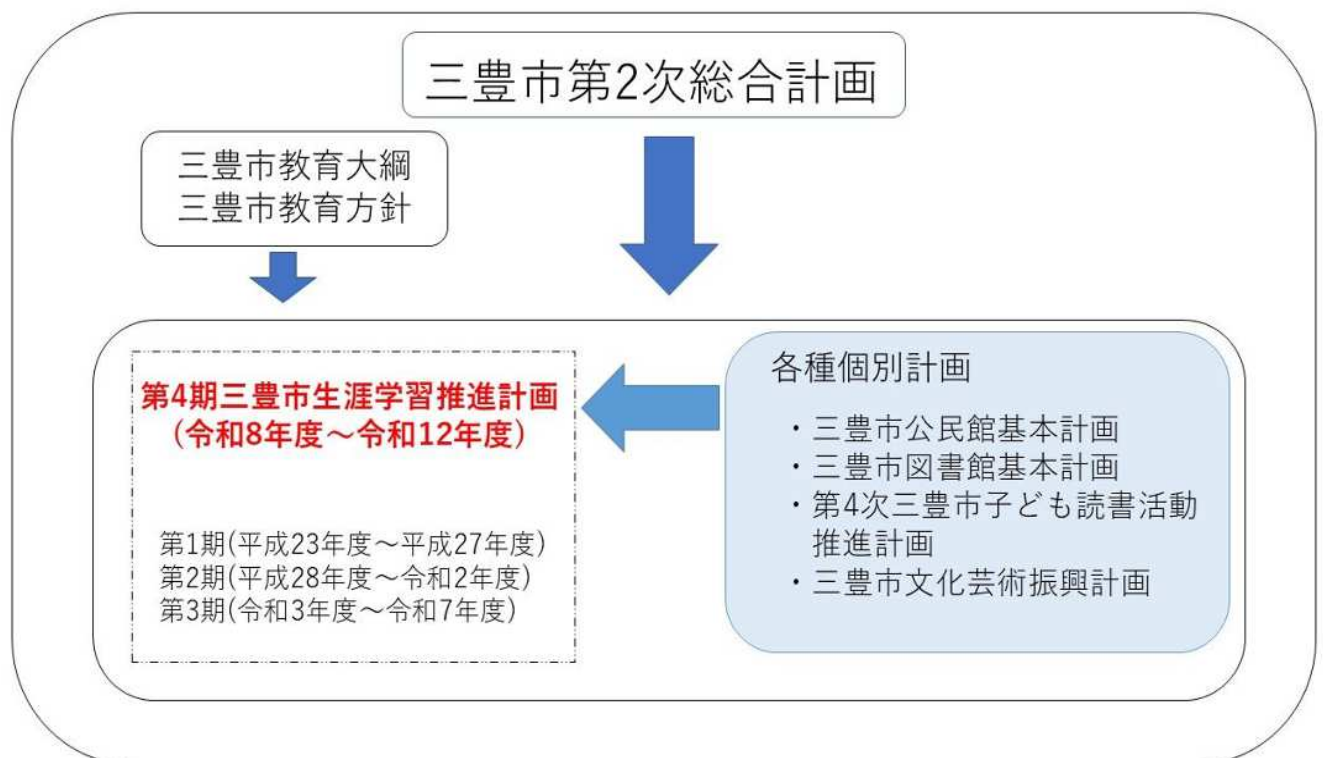
(1) 計画の位置づけと統合

本計画は、本市の最上位計画である三豊市第2次総合計画の基本目標②「【教育・文化・人権】知・体・心を育み、自分らしく暮らせるまち」の実現に向けた教育分野の基盤計画です。

また、本計画は事務事業の見直しにより、以下の4つの個別計画を統合した、本市における生涯学習の総合的な指針となります。

- ◆ 三豊市公民館基本計画
- ◆ 第4次三豊市子ども読書活動推進計画
- ◆ 三豊市図書館基本計画
- ◆ 三豊市文化芸術振興計画

これにより、本市教育委員会が所管する公民館、図書館、子ども読書、文化芸術の各分野の施策に一貫性を持たせ、効率的かつ効果的な生涯学習環境の整備を目指します。



(2) 計画の期間

本計画の期間は令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間とします。なお、計画最終年度には社会の潮流や施策・事業の達成度等を踏まえて、次期計画を検討し、本市における生涯学習を推進することとします。

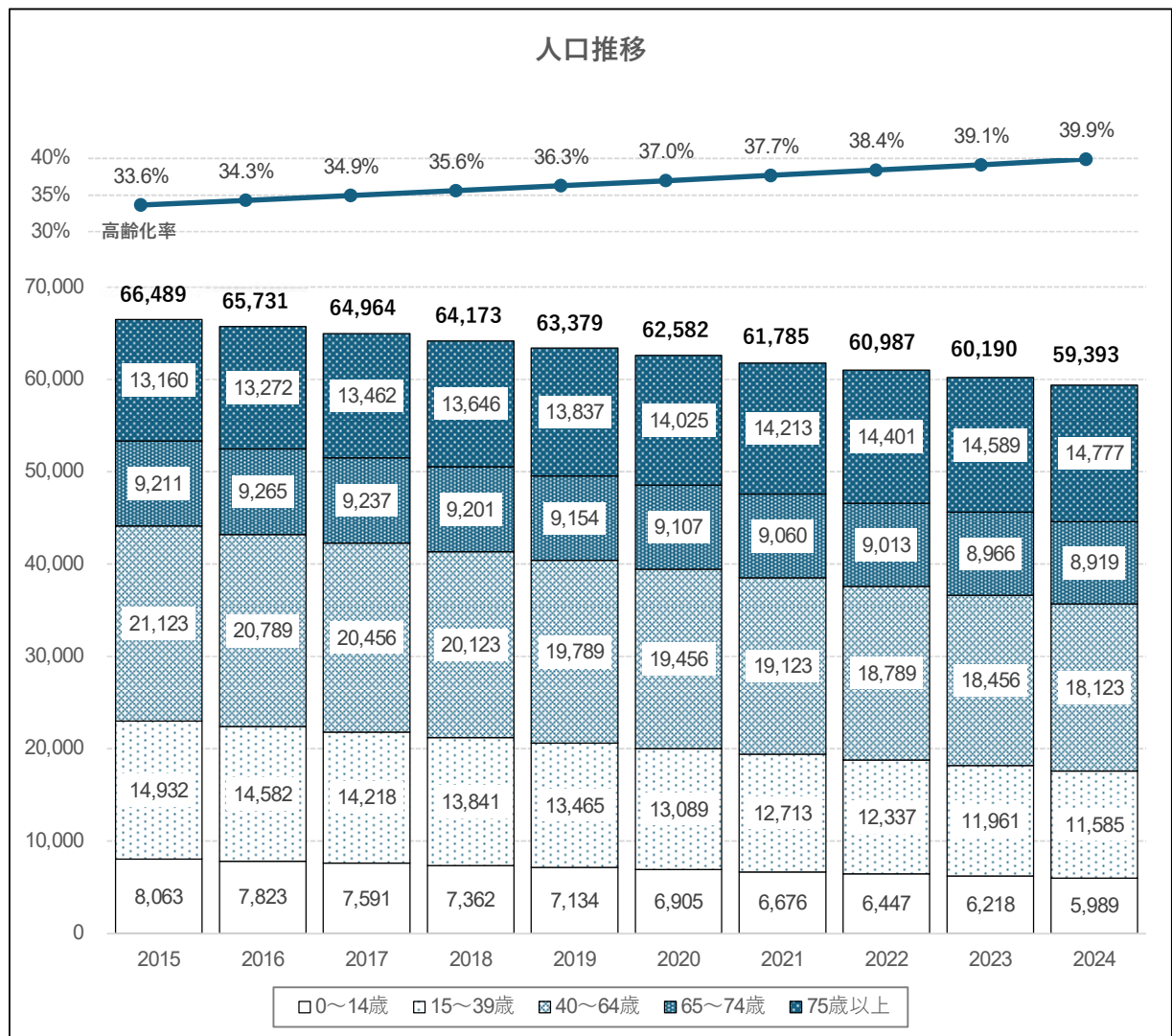
令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12
2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
三豊市第2 次総合計画(10年間)										第3 次	
第2期		第3期					第4期三豊市生涯学習推進計画				

第 2 章 生涯学習を取り巻く状況

1. 人口の推移

本市の総人口は合併時をピークに年々減少しており、それに伴って少子高齢化も進行しています。

令和 6（2024）年 10 月 1 日時点で、高齢者（65 歳以上）は 23,696 人、高齢化率は 39.9%となっています。



資料：住民基本台帳人口（各年 10 月 1 日時点）

2. 拠点施設の利用状況

(1) 公民館講座の状況

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
講座数	168	131	204	214	240
年間受講者数	6,007	4,326	5,580	6,831	5,361

(2) 図書館（室）の利用状況

図書館の利用状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
貸し出し延べ人数	56,751	62,192	60,160	59,724	57,471
貸し出し冊数	293,796	328,062	302,900	289,121	274,664

3. 児童生徒を取り巻く状況

(1) 家庭教育学級の状況

家庭教育学級の状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開催校（園）	17	16	19	17	17
開催回数（合計）	26	37	67	68	62
参加者数	1,596	2,510	5,188	4,549	4,637
校園在籍総数	5,747	5,554	5,352	5,231	5,084

(2) PTA 連絡協議会の状況

PTA 連絡協議会の状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
協議会事業開催数	16	17	19	18	19
参加者数	487	580	795	853	697

(3) 子ども関連団体の状況

主な団体の状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
単位子ども会数 (団体)	338	330	329	323	291
子ども会会員数 (人)	3,120	3,049	3,011	2,845	2,914
スポーツ少年団数 (団体)	40	40	39	38	38
スポーツ少年団 団員数(人)	727	726	716	707	713

4. スポーツ・文化活動の状況

(1) スポーツ活動の状況

スポーツ活動の状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
スポーツ推進委員数 (人)	42	42	40	39	40
市長杯開催数	10	8	17	16	15
スポーツ協会会長杯 開催数	8	4	9	14	11

(2) 文化協会の状況

文化協会の状況	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
会員数(人)	2,607	2,236	2,046	1,917	1,717

第3章 計画策定に向けた調査結果

1. 調査の目的

本調査は、「第3期三豊市生涯学習推進計画」が令和7年度で終了することに伴い、現行計画を継承し、さらに発展させた新たな計画の策定に向け、市民の生涯学習に関する考えや意見を伺い、計画づくりの基礎資料として活用するため実施しました。

2. 調査の概要

項目	市民アンケート調査		
調査対象者	三豊市在住の16歳以上の方（無作為抽出）		
調査期間	令和7年9月11日（木）～9月26日（金）		
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式または、WEB回答方式		
調査状況	配布数	有効回収数	有効回収率
	1,500件	690件	46.0%

3. 報告書の見方

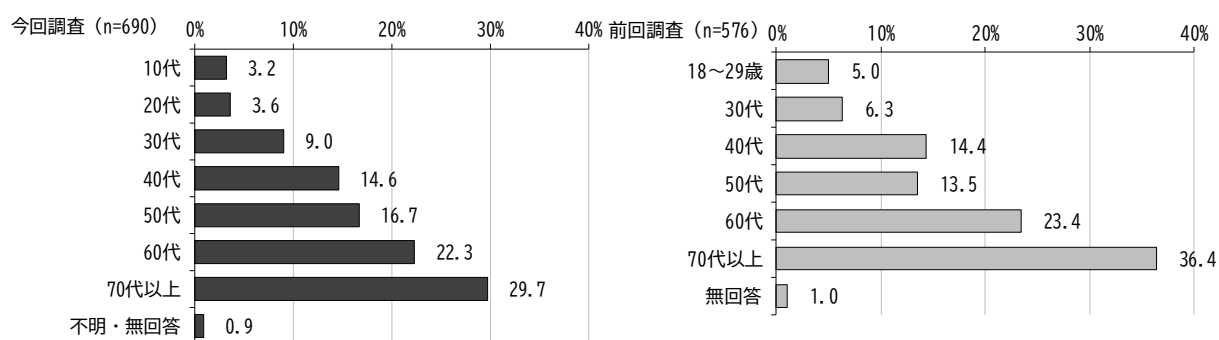
- ◇回答結果の割合「％」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

4. 調査結果

1 あなた自身について

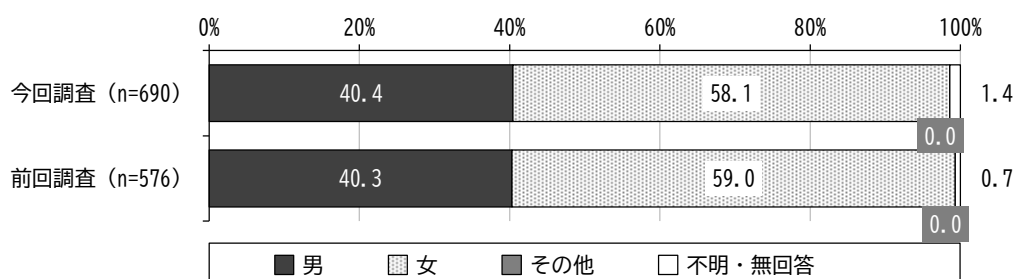
問1. あなたの年齢をお聞かせください。(単数回答)

「70代以上」が29.7%と最も高く、次いで「60代」が22.3%、「50代」が16.7%となっています。
前回調査と比較すると、「70代以上」が6.7ポイント減少しています。



問2. あなたの性別をお聞かせください。(単数回答)

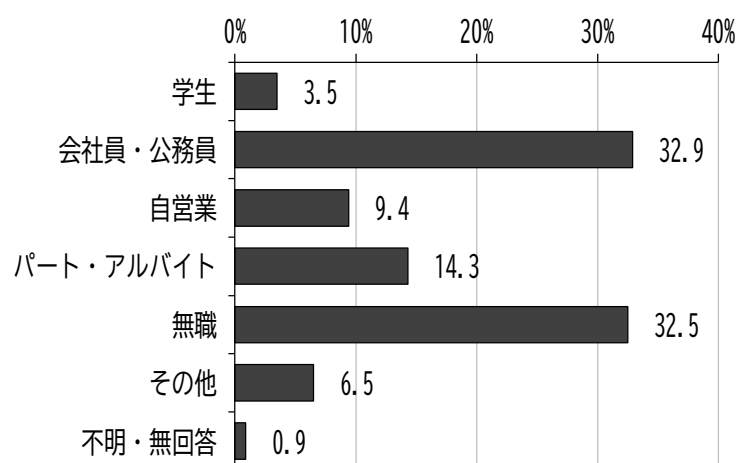
「男」が40.4%、「女」が58.1%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。



問3. あなたの職業をお聞かせください。(単数回答)

「会社員・公務員」が32.9%と最も高く、次いで「無職」が32.5%、「パート・アルバイト」が14.3%となっています。

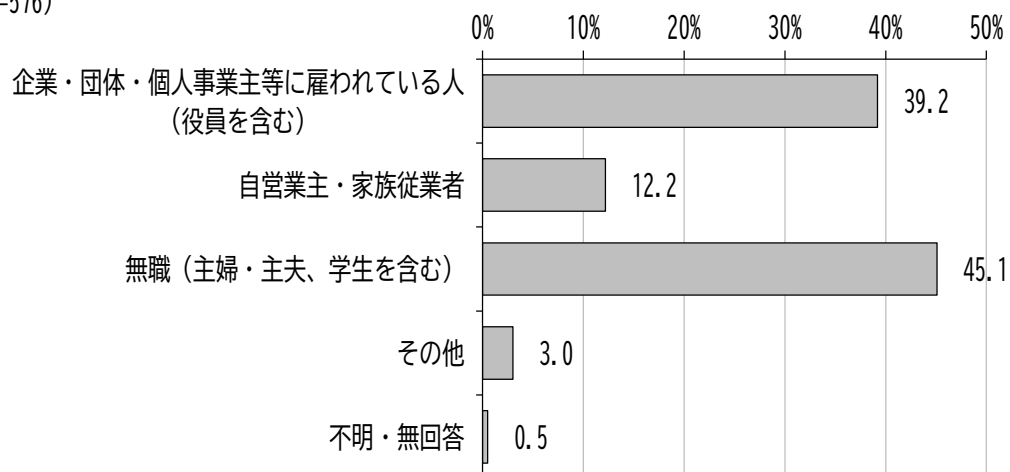
今回調査 (n=690)



(参考) 前回調査

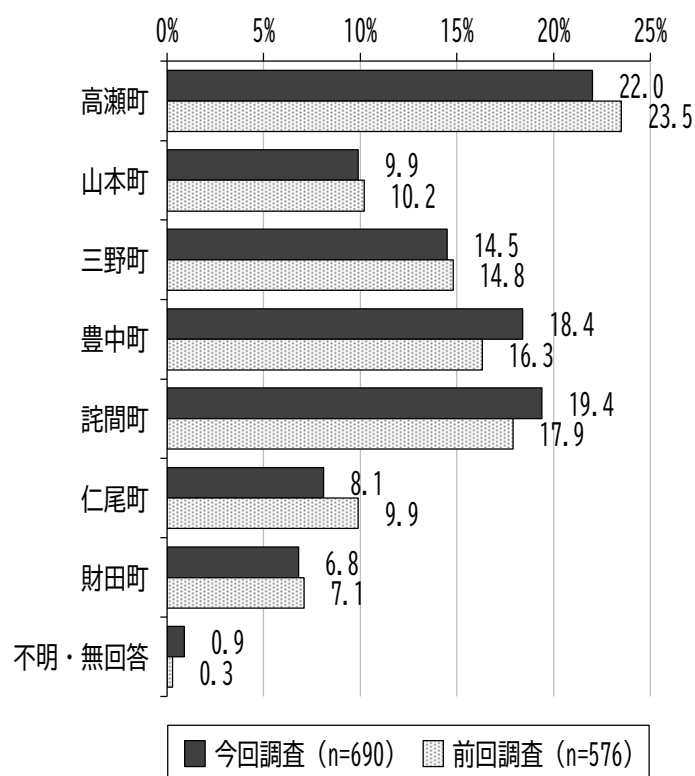
設問：あなたの立場は次のどれに当たりますか。

前回調査 (n=576)



問4. お住まいの地域をお聞かせください。(単数回答)

「高瀬町」が22.0%と最も高く、次いで「詫間町」が19.4%、「豊中町」が18.4%となっています。
前回調査と比較すると、大きな差はみられません。

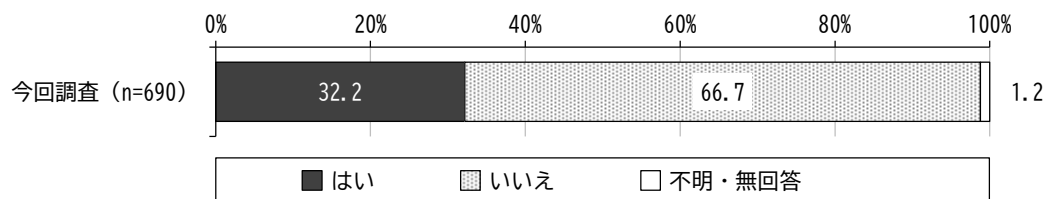


2 生涯学習全般について

問5. あなたはこの1年間に何らかの生涯学習活動に参加、または自主的に行いましたか。

(単数回答)

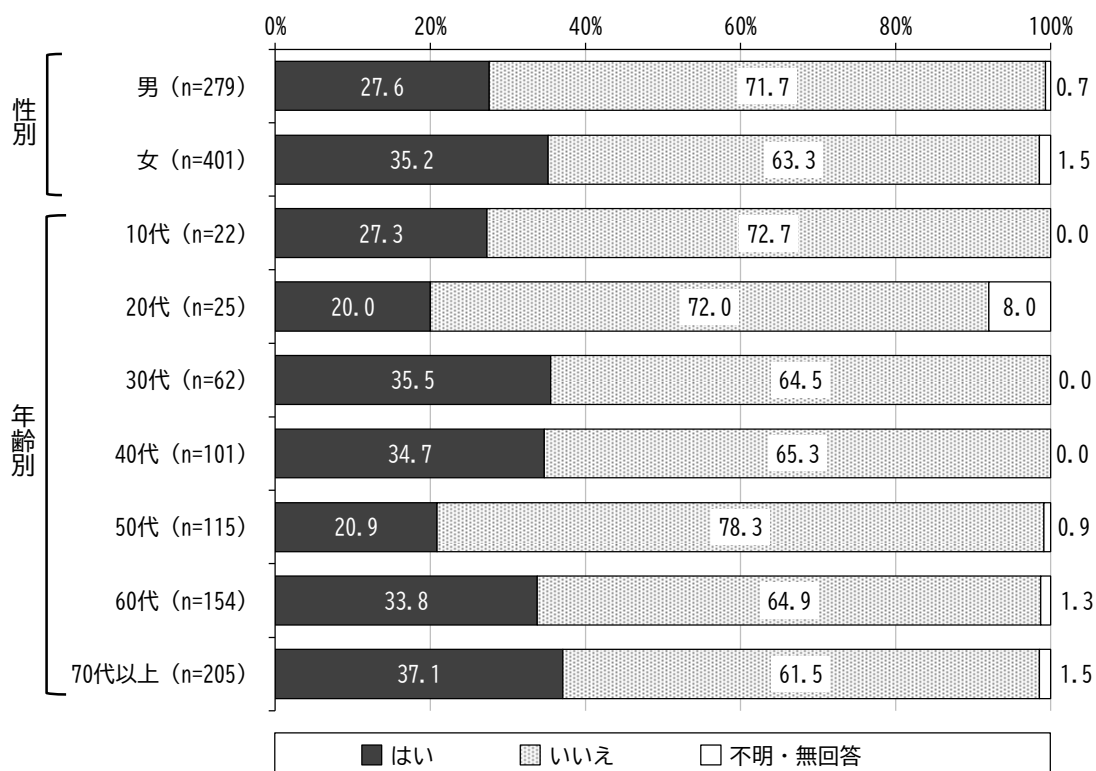
「いいえ」が66.7%と、「はい」の32.2%を上回っています。



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「いいえ」が高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「いいえ」が高くなっています。

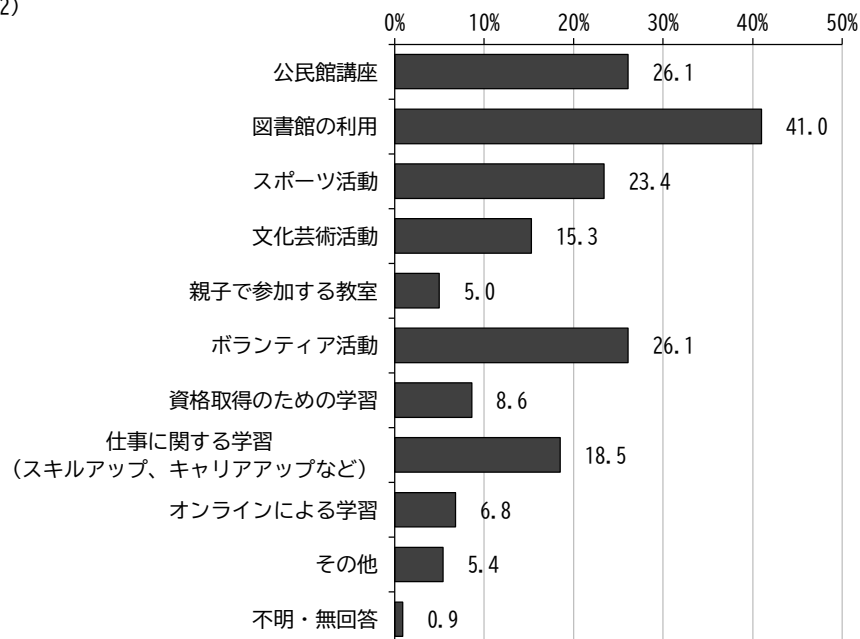


問5で「はい」と答えた方

問6. どのような生涯学習活動に参加、または自主的に行いましたか。(複数回答)

「図書館の利用」が41.0%と最も高く、次いで「公民館講座」「ボランティア活動」が26.1%となっています。

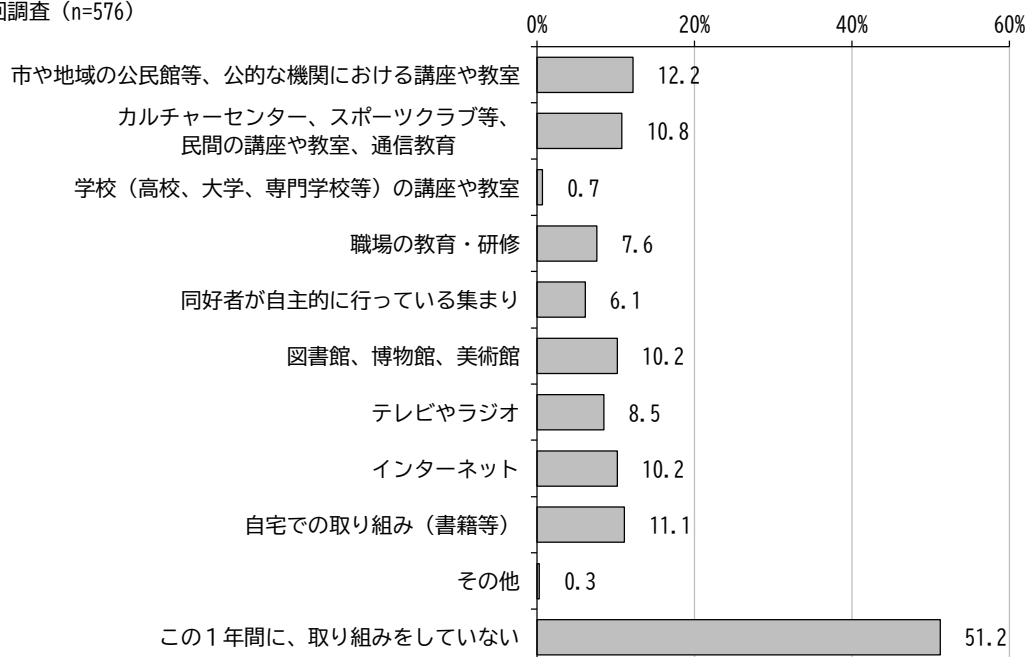
今回調査 (n=222)



(参考) 前回調査

設問：あなたは、この1年間に、どのような場所や形態で、生涯学習活動に取り組んだことがありますか。

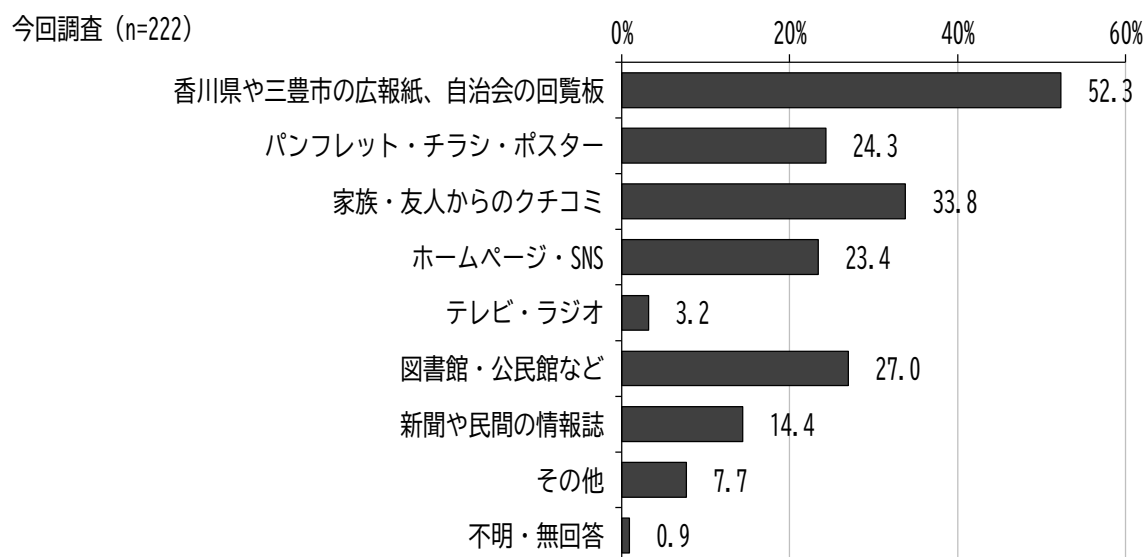
前回調査 (n=576)



問5で「はい」と答えた方

問7. 生涯学習活動についての情報はどこで得ていますか。(複数回答)

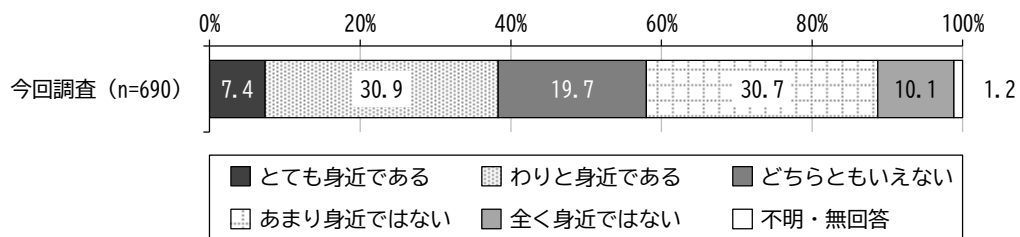
「香川県や三豊市の広報紙、自治会の回覧板」が52.3%と最も高く、次いで「家族・友人からのクチコミ」が33.8%、「図書館・公民館など」が27.0%となっています。



3 生涯学習の活動場所について

問8. 公民館・図書館・社会教育施設（みとよ未来創造館、マリンウェーブ、生涯学習センター等）は、あなたにとって身近な存在ですか。（単数回答）

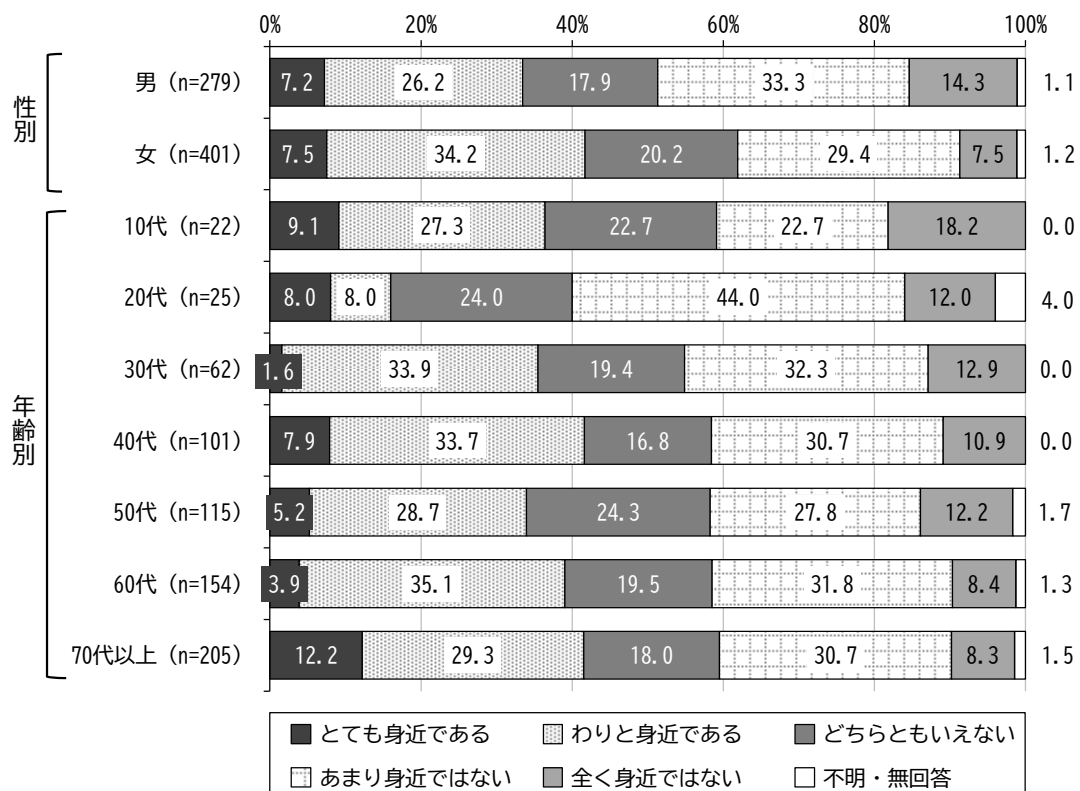
「わりと身近である」が30.9%と最も高く、次いで「あまり身近ではない」が30.7%、「どちらともいえない」が19.7%となっています。



【性別・年齢別】

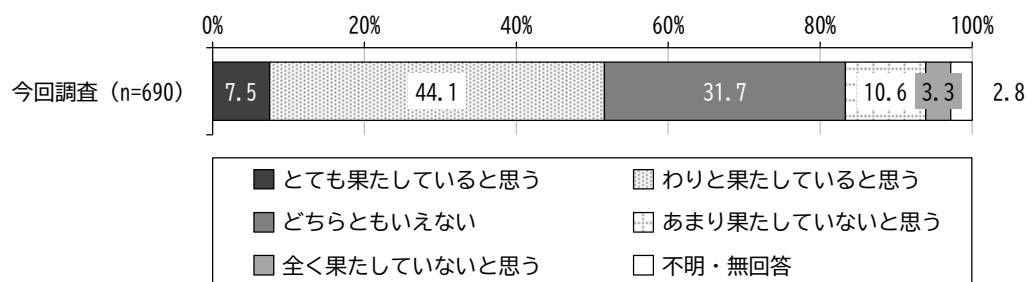
性別にみると、男では「あまり身近ではない」、女では「わりと身近である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20代、70代以上では「あまり身近ではない」、その他の年齢層では「わりと身近である」が最も高くなっています。



問9. 問8の施設が「地域の学びや交流の中心的な役割」を果たしていると思いますか。(単数回答)

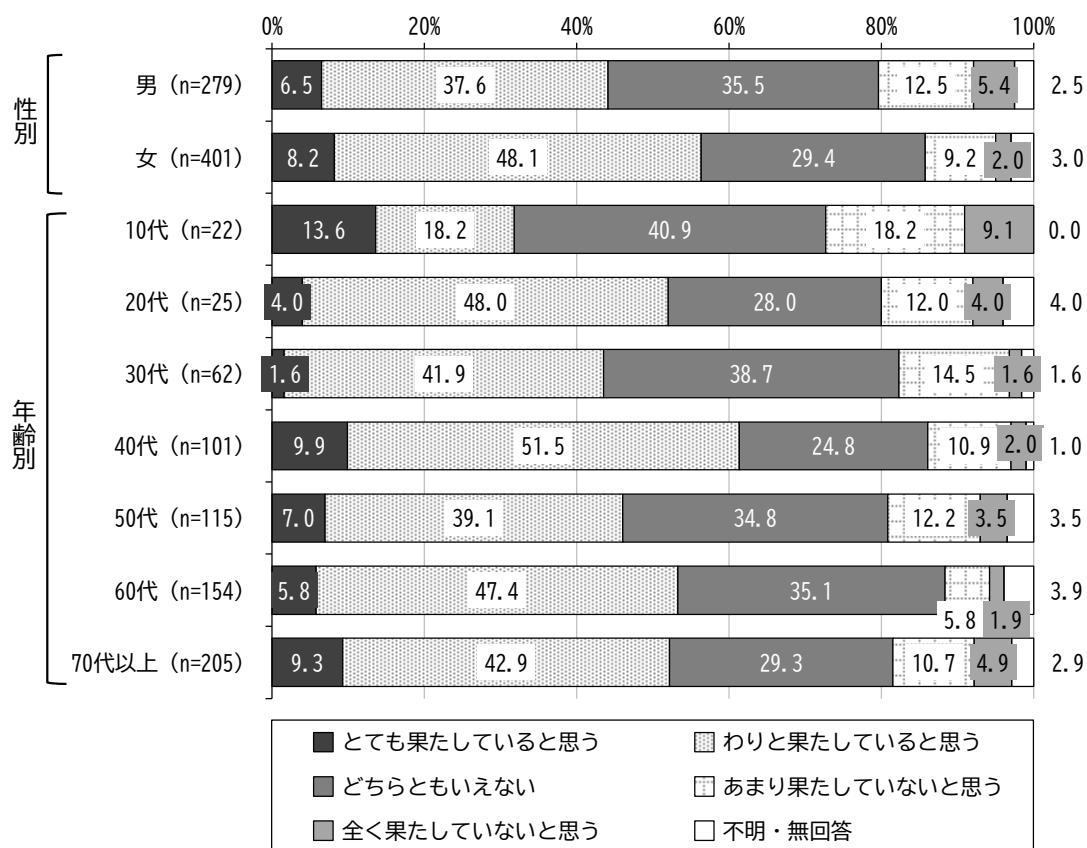
「わりと果たしていると思う」が44.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が31.7%、「あまり果たしていないと思う」が10.6%となっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「わりと果たしていると思う」が最も高くなっています。

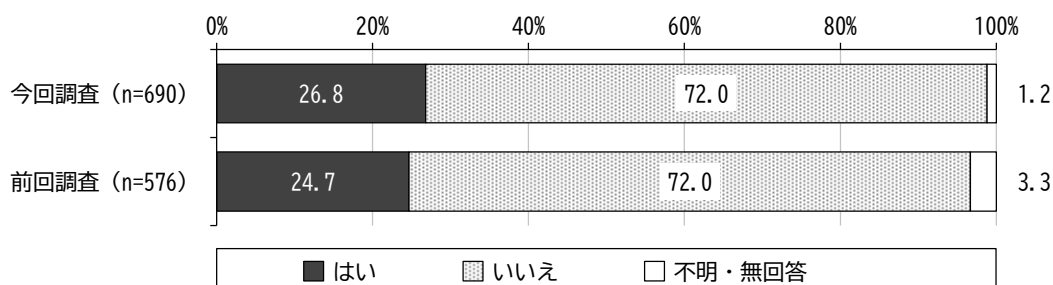
年齢別にみると、10代では「どちらともいえない」、20代以上では「わりと果たしていると思う」が最も高くなっています。



問 10. あなたはこの1年間に市の図書館を利用しましたか。(単数回答)

「いいえ」が72.0%と、「はい」の26.8%を上回っています。

前回調査と比較すると、大きな差はみられません

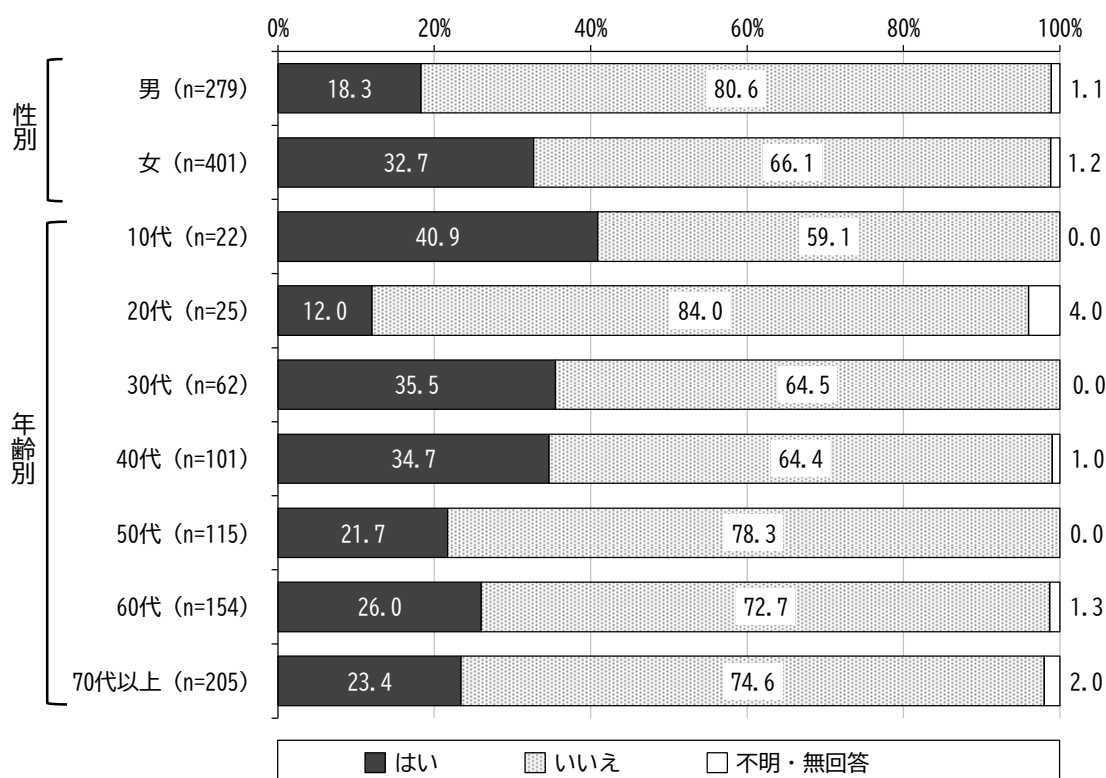


※「はい」「いいえ」は前回調査では「利用した」「利用しなかった」。

【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「いいえ」が高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「いいえ」が高くなっています。

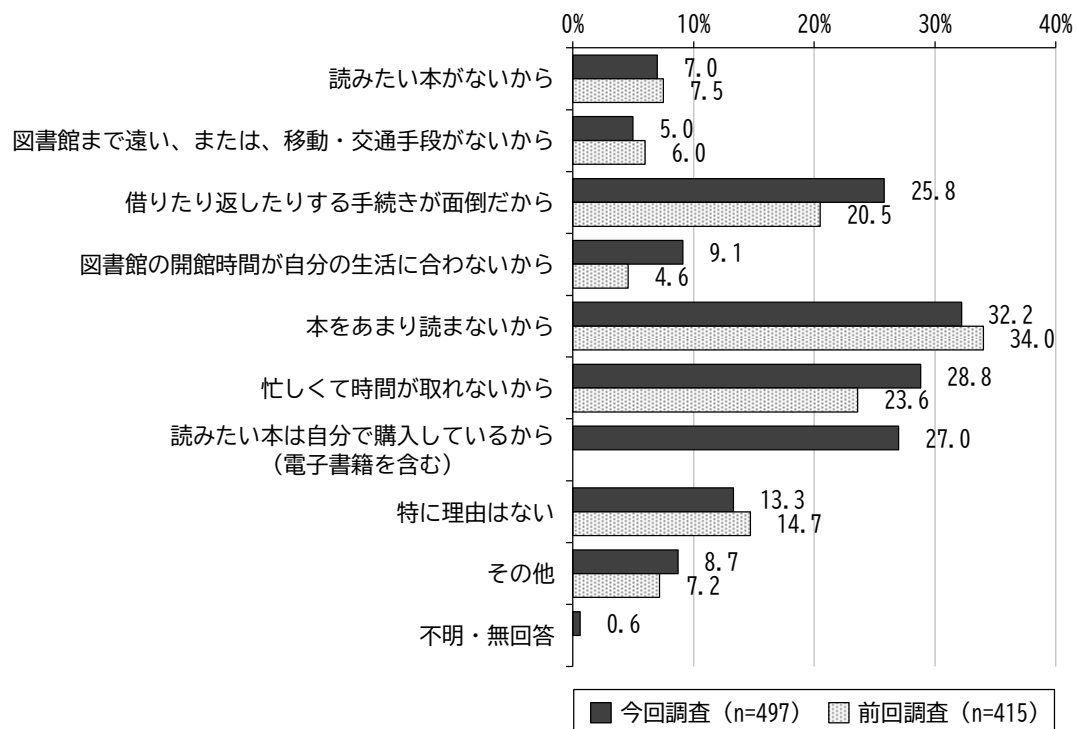


問 10 で「いいえ」と答えた方

問 11. 利用しなかった理由は何ですか。(複数回答)

「本をあまり読まないから」が 32.2%と最も高く、次いで「忙しくて時間が取れないから」が 28.8%、「読みたい本は自分で購入しているから（電子書籍を含む）」が 27.0%となっています。

前回調査と比較すると、「借りたり返したりする手続きが面倒だから」が 5.3 ポイント、「忙しくて時間が取れないから」が 5.2 ポイントそれぞれ増加しています。



※「読みたい本がないから」は前回調査では「借りたい本がない」。

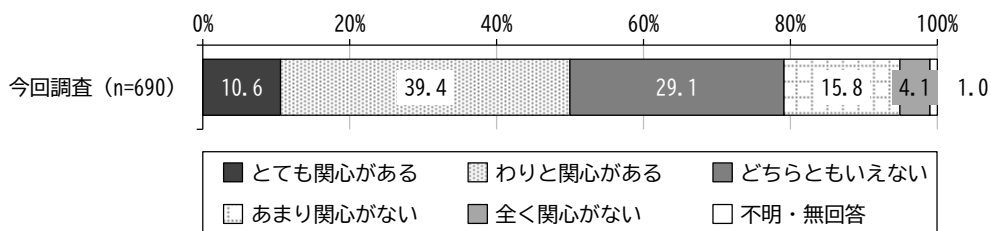
※「図書館の開館時間が自分の生活に合わないから」は前回調査では「図書館（室）の開館時間が合わない」。

※「読みたい本は自分で購入しているから（電子書籍を含む）」は今回調査のみ。

4 家庭教育について

問 12. あなたは、「家庭教育」にどの程度関心がありますか？（単数回答）

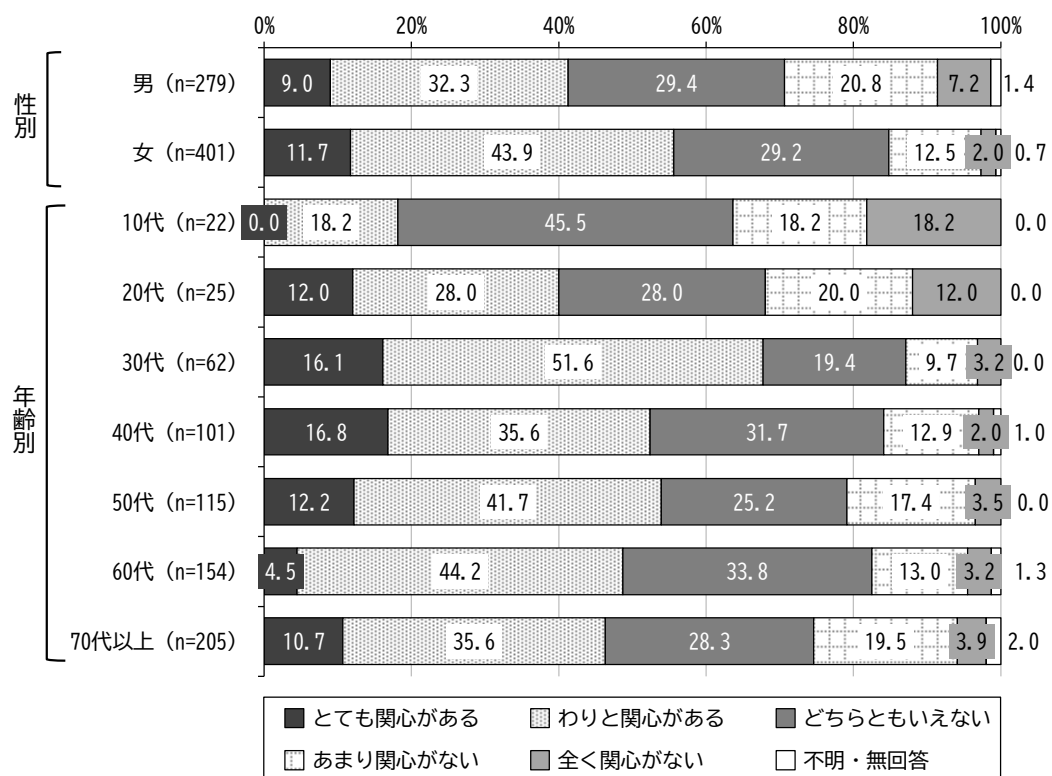
「わりと関心がある」が 39.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 29.1%、「あまり関心がない」が 15.8%となっています。



【性別・年齢別】

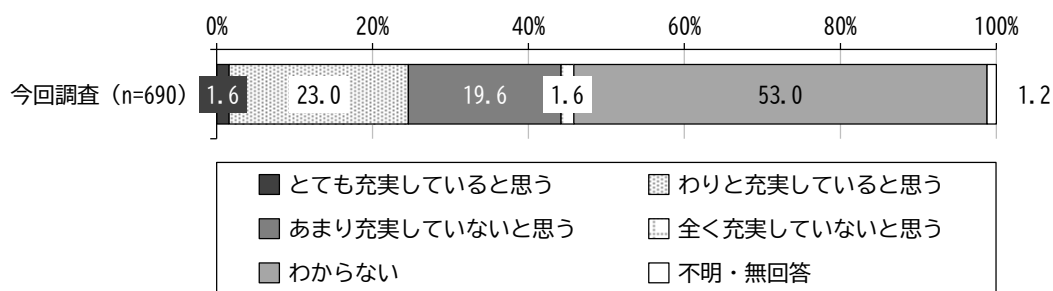
性別にみると、男女ともに「わりと関心がある」が最も高くなっています。

年齢別にみると、10代では「どちらともいえない」、20代では「わりと関心がある」「どちらともいえない」、30代以上では「わりと関心がある」が最も高くなっています。



問 13. 三豊市では、市やその他の団体が提供する家庭教育に関する講座やイベント、相談サービスが充実していると思いますか？（単数回答）

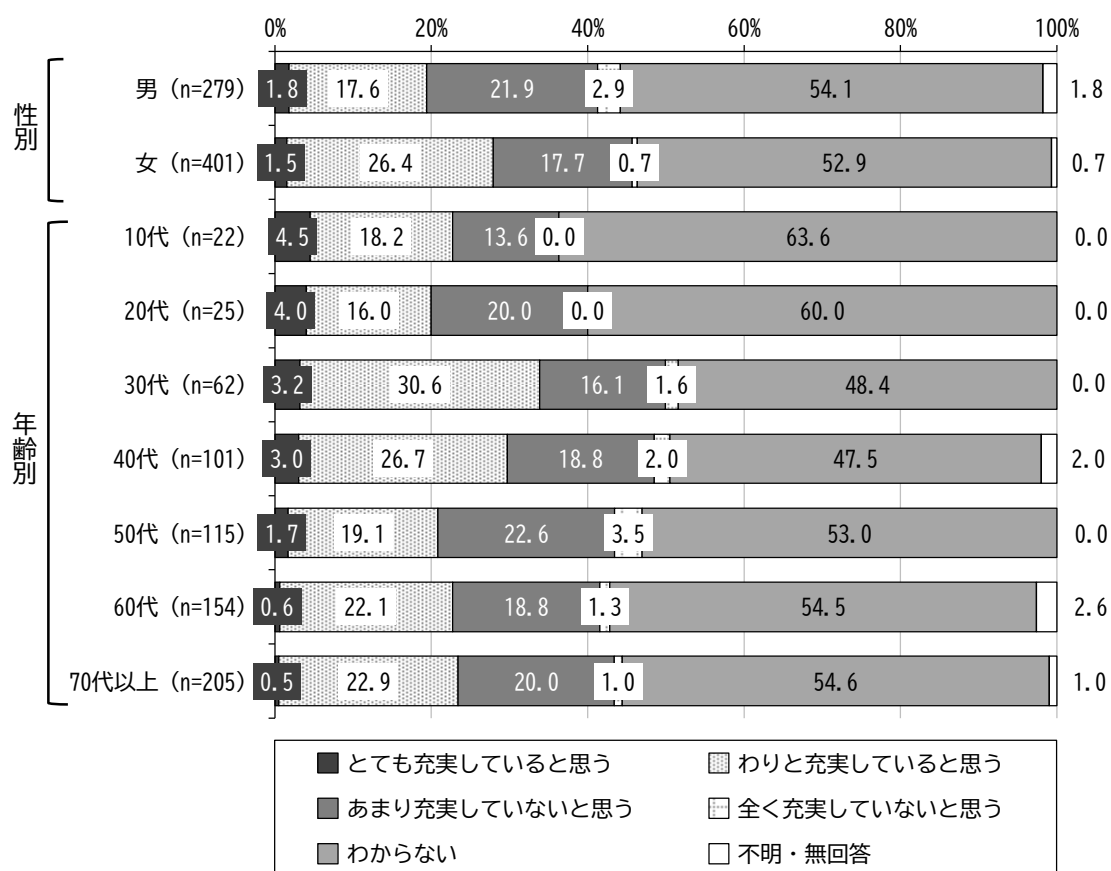
「わからない」が 53.0%と最も高く、次いで「わりと充実していると思う」が 23.0%、「あまり充実していないと思う」が 19.6%となっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「わからない」が最も高くなっています。

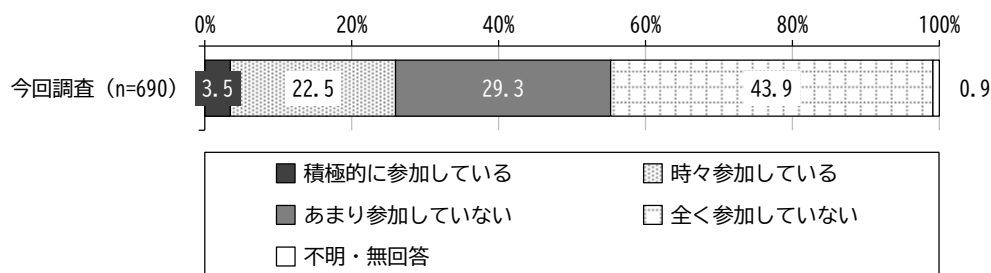
年齢別にみると、すべての年齢層で「わからない」が最も高くなっています。



5 文化・芸能活動について

問 14. 地域での文化・芸術イベント（例：文化祭、コンサート、講演会等）への程度参加していますか。（単数回答）

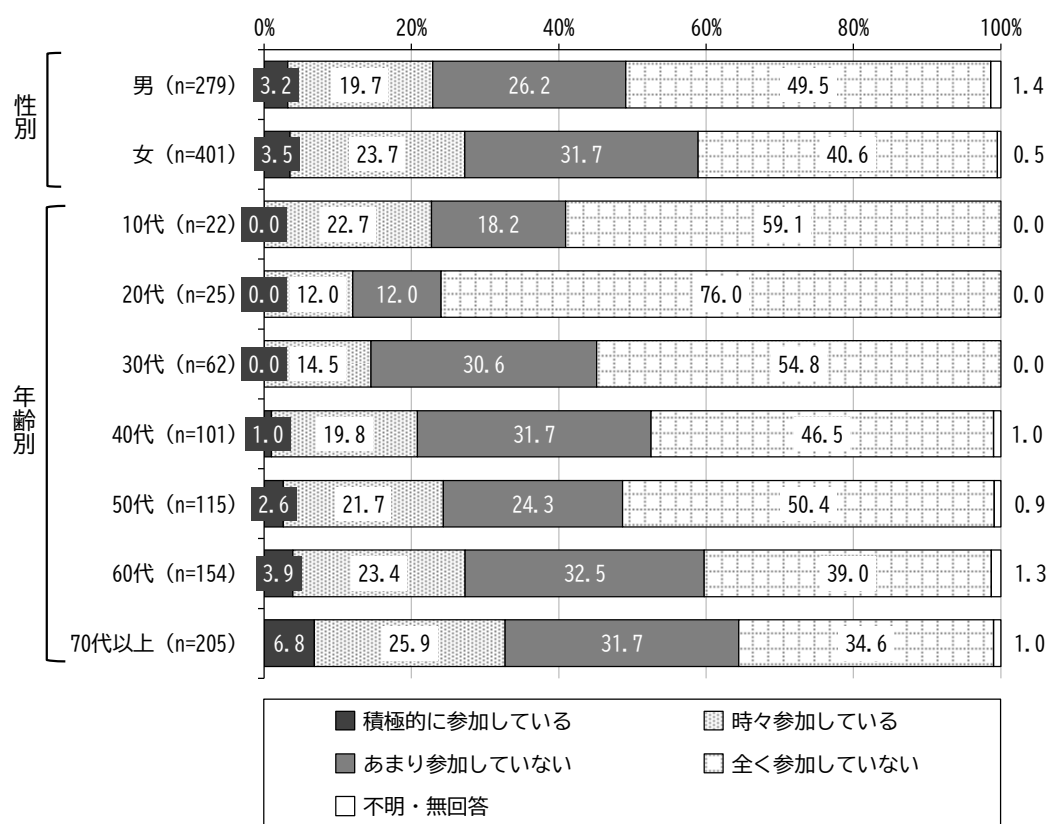
「全く参加していない」が43.9%と最も高く、次いで「あまり参加していない」が29.3%、「時々参加している」が22.5%となっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、男女ともに「全く参加していない」が最も高くなっています。

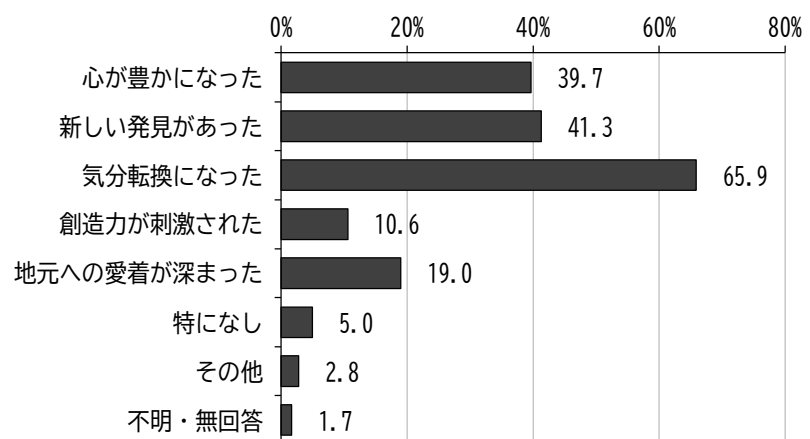
年齢別にみると、すべての年齢層で「全く参加していない」が最も高くなっています。



問 14 で「積極的に参加している」または「時々参加している」と答えた方
問 15. 参加して、あなた自身への良い影響は何ですか。(複数回答)

「気分転換になった」が 65.9%と最も高く、次いで「新しい発見があった」が 41.3%、「心が豊かになった」が 39.7%となっています。

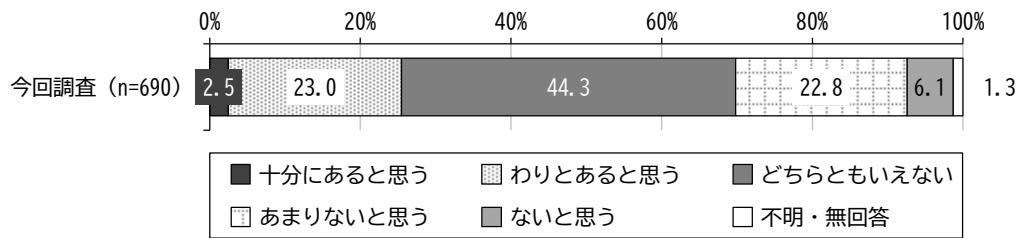
今回調査 (n=179)



6 文化財の保護と継承について

問 16. 三豊市では、地域の歴史や文化財について学ぶ機会は十分にあると思いますか。(単数回答)

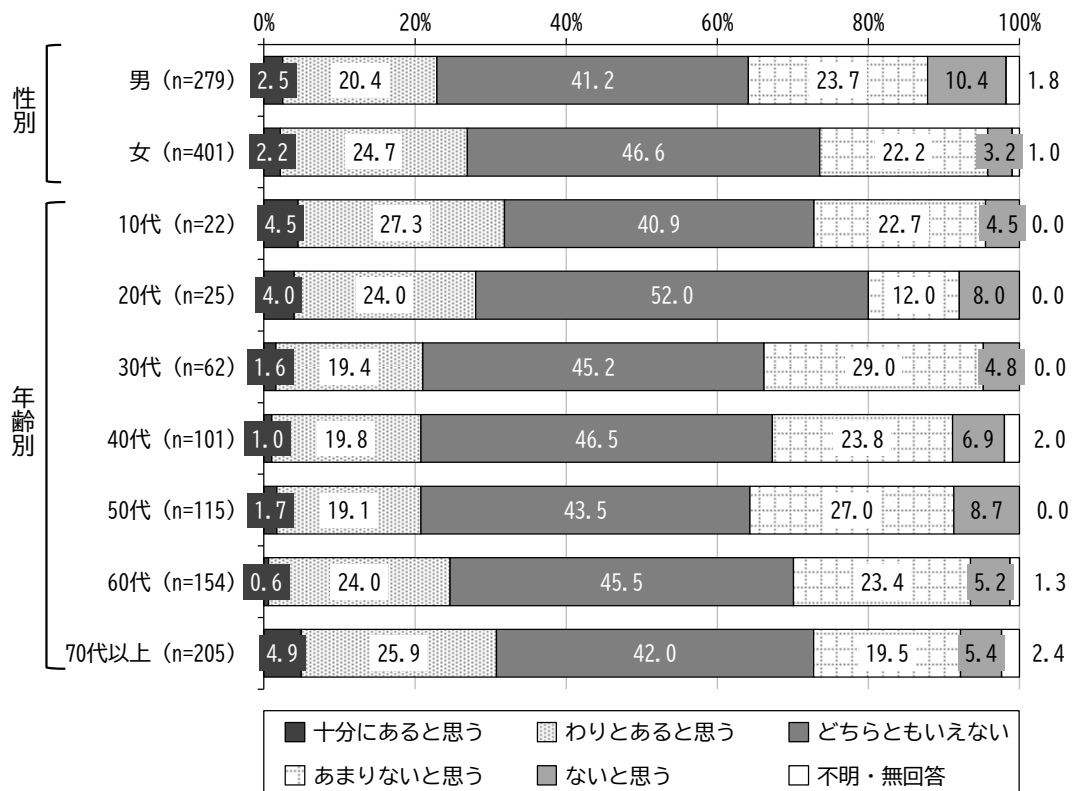
「どちらともいえない」が44.3%と最も高く、次いで「わりとあると思う」が23.0%、「あまりないと思う」が22.8%となっています。



【性別・年齢別】

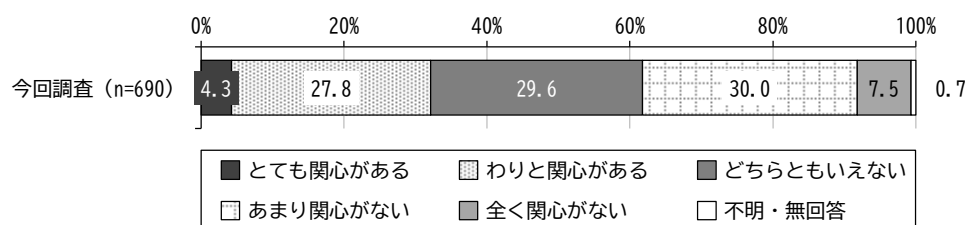
性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



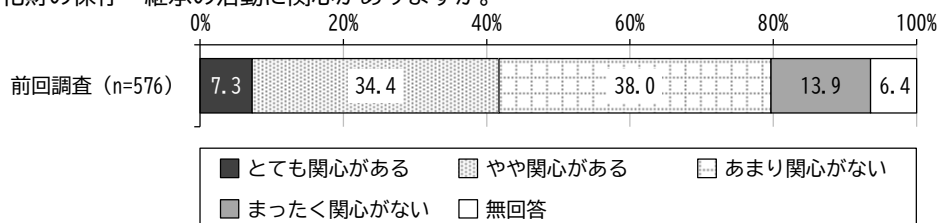
問 17. 三豊市内の文化財（伝統的な建物、歴史的資料、美術工芸品、伝統行事など）の保護・継承活動に関心はありますか？（単数回答）

「あまり関心がない」が30.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.6%、「わりと関心がある」が27.8%となっています。



（参考）前回調査

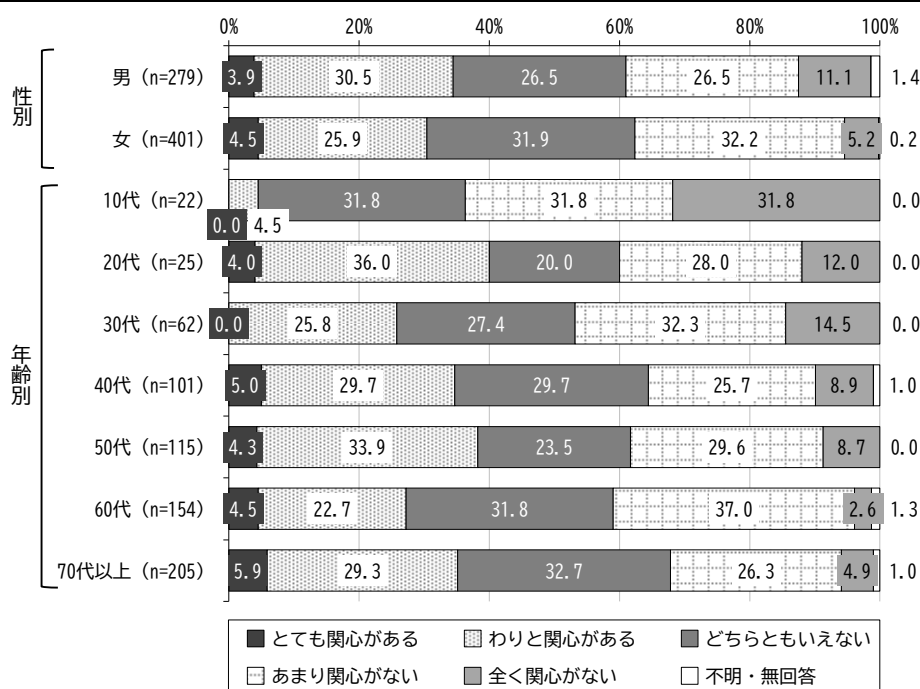
設問：文化財の保存・継承の活動に関心がありますか。



【性別・年齢別】

性別にみると、男では「わりと関心がある」、女では「どちらともいえない」が最も高くなっています。

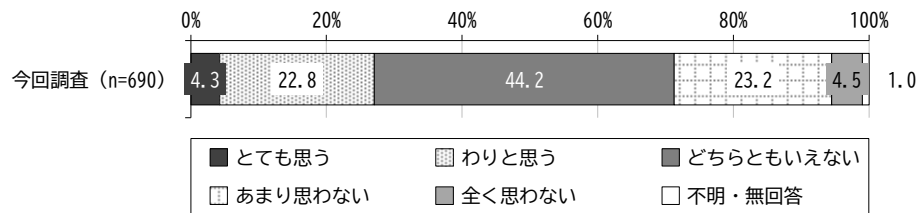
年齢別にみると、10代では「どちらともいえない」「あまり関心がない」「全く関心がない」、20代、50代では「わりと関心がある」、30代、60代では「あまり関心がない」、40代では「わりと関心がある」「どちらともいえない」、70代以上では「どちらともいえない」が最も高くなっています。



7 学習成果の地域への還元について

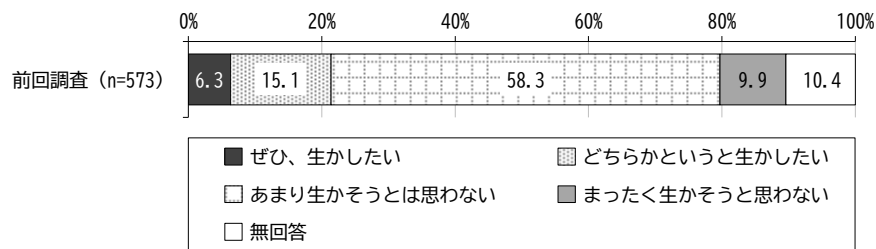
問 18. 学習で得られた知識やスキルを、地域活動やボランティア活動など地域のために活かしたい
 と思いますか。(単数回答)

「どちらともいえない」が 44.2%と最も高く、次いで「あまり思わない」が 23.2%、「わりと思う」
 が 22.8%となっています。



(参考) 前回調査

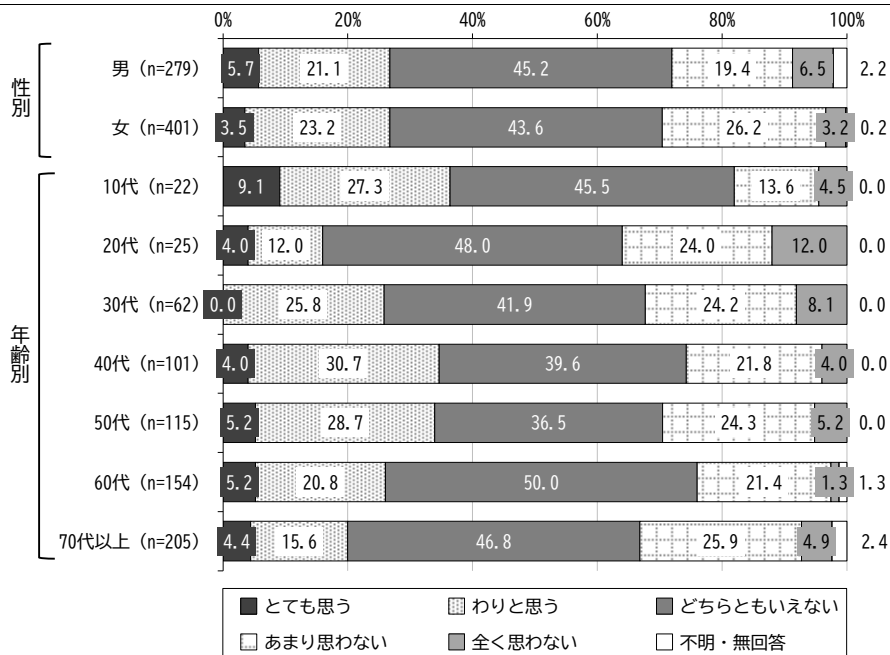
設問：あなたは、今後、身につけた知識・技能・経験等を地域社会で生かしたい(役立てたい)と思いますか。



【性別・年齢別】

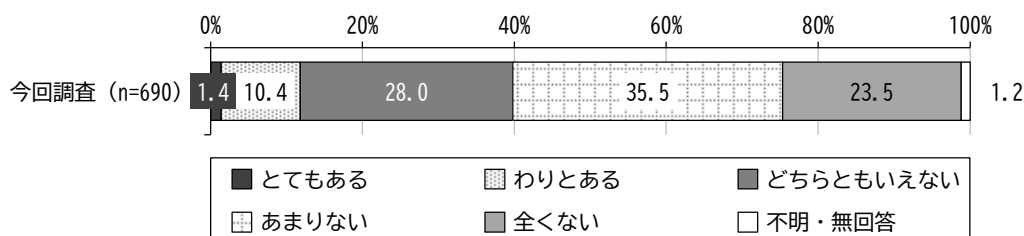
性別にみると、男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年齢層で「どちらともいえない」が最も高くなっています。



問 19. 自分の学びや経験を、地域活動やボランティア活動など地域のために活かす機会がありますか。(単数回答)

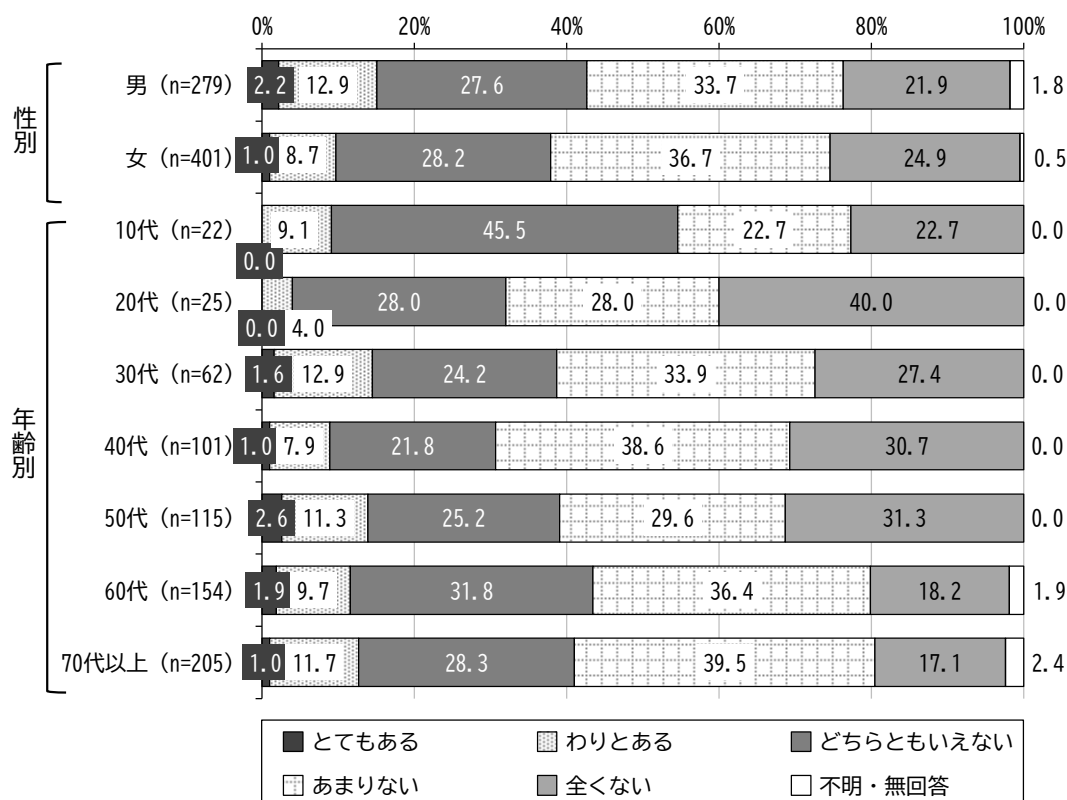
「あまりない」が 35.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 28.0%、「全くない」が 23.5%となっています。



【性別・年齢別】

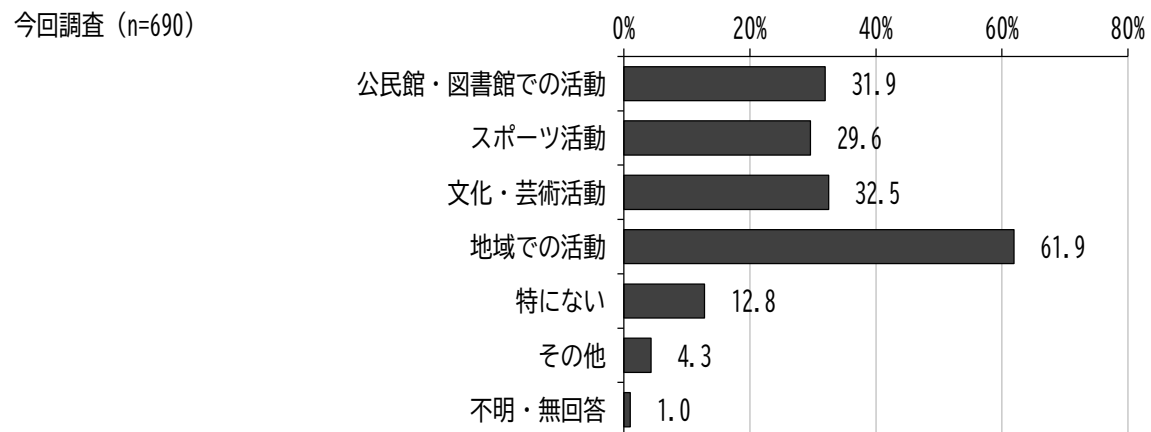
性別にみると、男女ともに「あまりない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、10代では「どちらともいえない」、20代、50代では「全くない」、その他の年齢層では「あまりない」が最も高くなっています。



問 20. 地域の中で世代間交流（子どもと高齢者の交流など）ができる活動の場はどこだと思いますか。（複数回答）

「地域での活動」が 61.9%と最も高く、次いで「文化・芸術活動」が 32.5%、「公民館・図書館での活動」が 31.9%となっています。



8 今後の生涯学習推進に向けて

問 21. 地域における生涯学習の活動や環境をより良くするためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えやご意見をお書きください。

【意見要約】

市全体を通じて共通して指摘された主要な課題は、大きく三つに集約されます。

第一に、施設の集約化に対する不安の解消と利便性の確保です。七つの旧町全域で公民館や図書館の老朽化が深刻であるとの指摘がありますが、同時に、施設が集約されることによって活動場所が遠くなると、特に高齢者や子どもが参加しづらくなることも懸念されています。

第二に、情報発信のデジタル化や多角化についてです。活動内容や講座の開催情報が「広報誌だけでは不十分」「情報がない」という声が多く寄せられ、参加意欲のある市民に情報が十分に届いていないという課題があります。今後は SNS やデジタル媒体を積極的に活用し、共働き世代や若年層、地域在住者に適切なタイミングで確実に情報を届けるための努力が求められています。

第三に、活動内容の多様化と現代的ニーズへの対応です。現状の講座が固定化・高齢化しているとの認識から、子育て支援、デジタル技術、地域の特色を生かしたテーマなど、若い世代や共働き世代のニーズに合わせた活動内容への多様化、そして夜間や週末の時間帯での活動開催への要望があります。

5. 結果から見える課題

主な設問の結果から、住民意識を踏まえた課題について、以下のように項目別に整理しました。

項 目	課 題
生涯学習環境	誰もが利用しやすい施設環境への改善 必要な人に情報を届けるための発信方法の工夫
家庭教育力	子育ての不安を和らげる情報提供の充実 親子で楽しめる魅力的なプログラムの提供
文化・芸術	若い世代も参加したくなるきっかけづくり 文化・芸術を次世代へつなぐための魅力発信と体験機会の充実
文化財	文化財に親しむ機会の充実 地域の宝としての価値を伝える活動の広がり
学習成果	「学びたい」「学びを生かしたい」という思いを叶える活動の場の広がり 学びの成果を地域へつなぐ仕組みづくり
スポーツ・レクリエーション	誰もが親しめる環境づくりによる活動の裾野拡大の推進 地域コミュニティの核となる多世代交流機能の強化 (第2期三豊市スポーツ推進計画策定時の市民アンケート結果も含む。)

第4章 基本理念と基本目標

1. 基本理念

生涯にわたって学び、

学習成果を地域に生かせる持続可能な環境づくり

本市は、市民の「学びたい」「活動したい」という意欲を尊び、その個性と能力が最大限に引き出される環境整備を目指します。さらに、学びの成果が個人の内に留まらず個人個人の「Only One」の力として地域社会に貢献・還元されることを目指します。市民と行政が「協働・共助」の精神で心一つに連携し、生涯学習を力強く推進します。

2. 基本目標

【目標1】生涯にわたる学びによる「Only One」の自己実現

誰もが利用しやすい質の高い学習・スポーツ環境が地域に根付き、市民が「Only One」の人生を自ら創造できるようにします。全ての市民に学習機会が届くよう、デジタル媒体や広報紙を活用した効果的な情報発信を推進します。

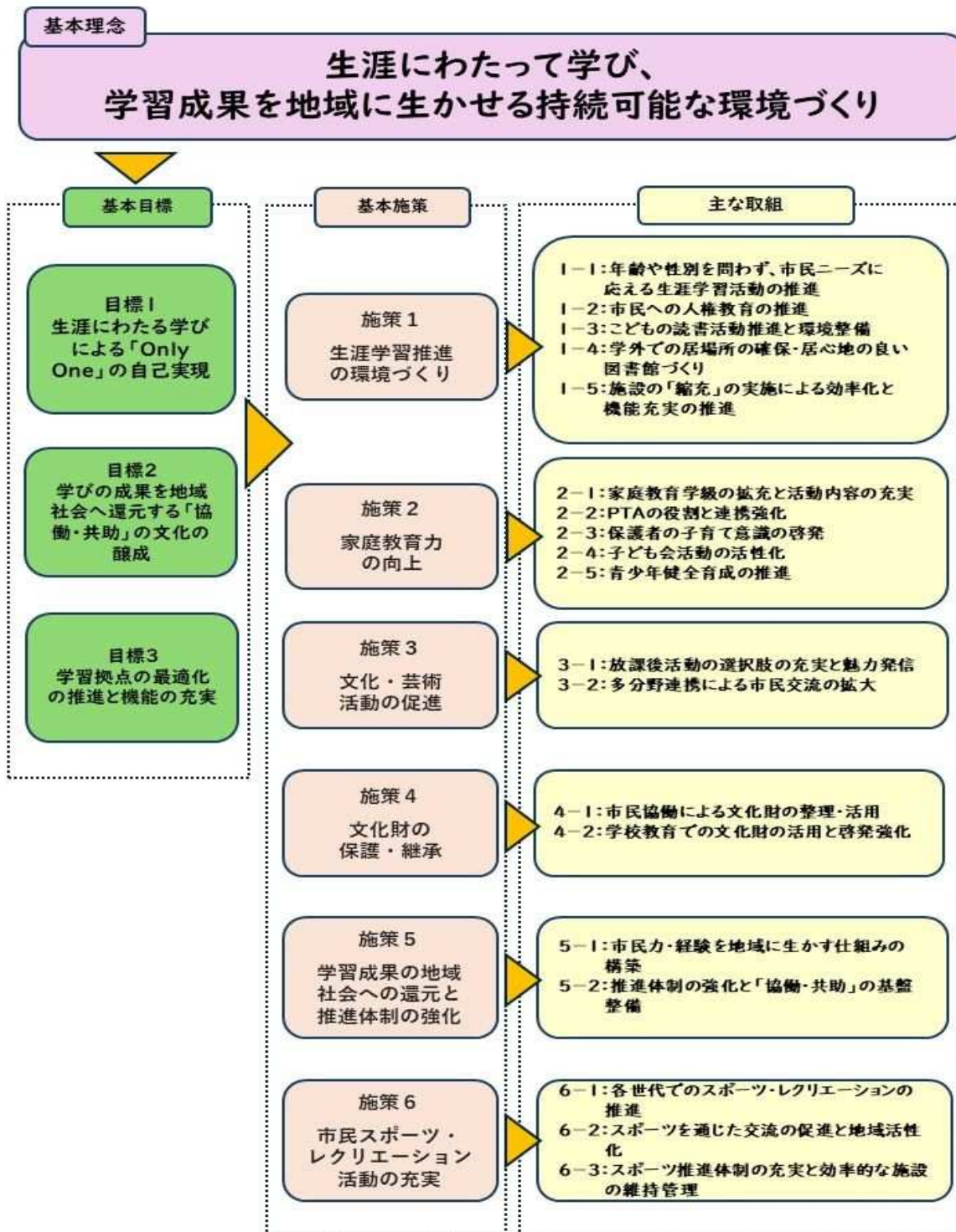
【目標2】学びの成果を地域社会へ還元する「協働・共助」の文化の醸成

市民の知識や経験を地域活動へ生かすための仕組みの構築に向けて取組を推進します。地域貢献のための活動を広く周知し、活動への参画を促すことで、「協働・共助」の文化を醸成していきます。

【目標3】学習拠点の最適化の推進と機能の充実

公民館や図書館など学習拠点の施設について「縮充」の視点から再編・統合を行い市民にとって利用価値や満足度の高い学習環境の最適化を目指します。なお「縮充」とは、単に施設の数減らすことではなく、分散していた資源を統合・集中させることで、サービスや質を高め、機能を最大限に充実させるための前向きな取組です。

3. 施策の体系



第 5 章 主要施策の方向性

施策Ⅰ：生涯学習推進の環境づくり

現 状

- 公民館では、若い世代や親子を対象とした講座、デジタル活用やダンスなどの時流に即した講座を開催しています。また、防災訓練や「みとよ kids スタジオ」など、多世代が参加できる事業の工夫を行っています。
- 図書館では、中央館を中心とした運営を行い、サービスの統一化を図るとともに、特色ある図書館づくりを進めています。また、HP や LINE を活用した情報発信や、スマートフォンでの利用カード表示など、利便性の向上にも取り組んでいます。
- 緊急性の高い修繕には対応していますが、耐用年数を超えた施設も存在しています。

課 題

- 講座やイベントの参加者が固定化しており、新しい層や若い世代の取り込みが不十分です。
- HP や LINE 等で発信しているものの、ターゲット層に情報が十分に届いていない現状があり、媒体や手法の改善が必要です。
- 図書館利用者数が減少傾向にある中、現在の 7 館体制を維持することは困難であり、再編と機能強化のバランスが求められています。
- 公民館等を「身近ではない」と感じる市民が約 4 割に達しており、サービスと市民生活の隔たりがあります。
- 施設の集約化検討においては、高齢者や障がいのある方など、移動手段を持たない市民への配慮や学習機会の保障が求められています。

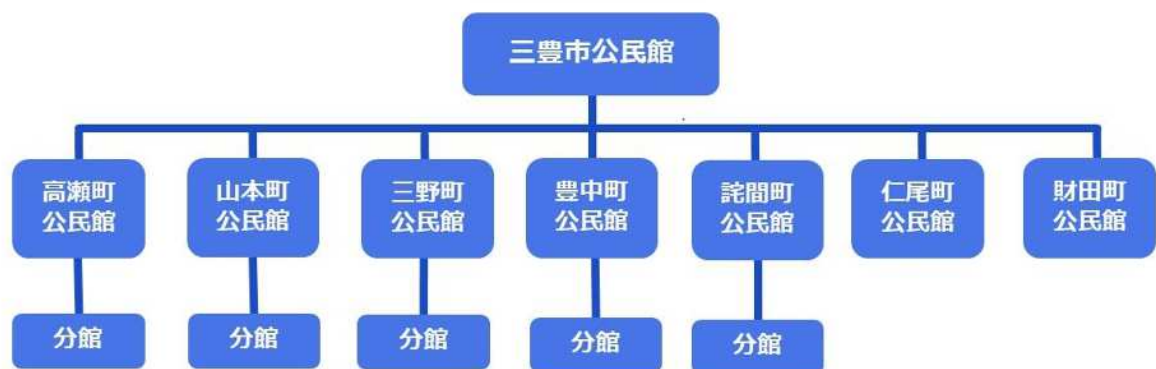
施策・事業の概要

本施策では、公民館・図書館など、学習拠点の再編と、利用促進のためのサービスの向上を推進します。

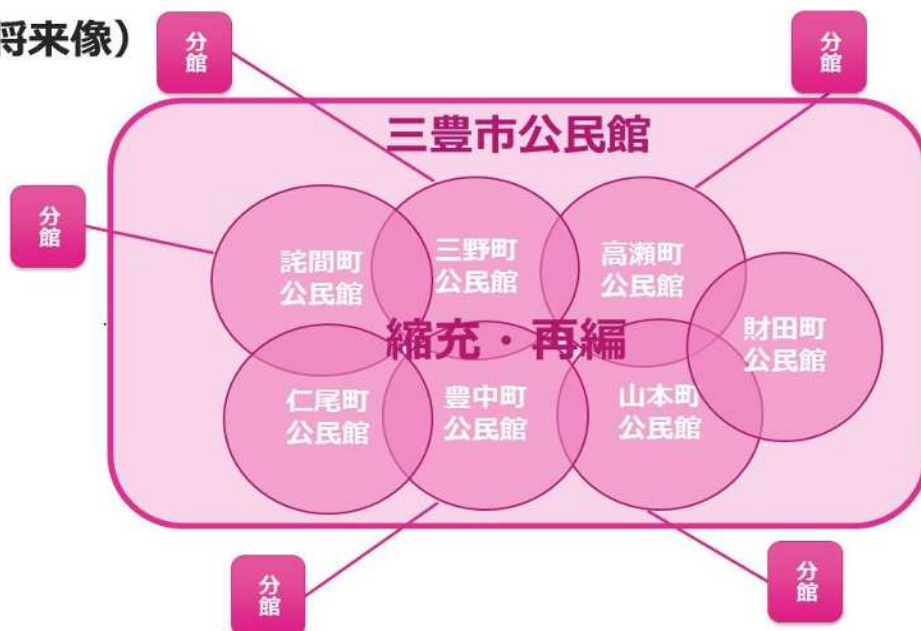
施策・事業	概要	関連部署
1-1 [公民館] 年齢や性別を問わず、市民ニーズに応える生涯学習活動の推進	現在の主な利用者である高齢者に向けた講座だけでなく、親子で参加できる講座や、若い世代が興味を持つような講座や行事を、市民の意見を聞きながら、休日に開催するなど参加しやすい工夫をしつつ、積極的に実施していきます。	生涯学習課
1-2 [公民館] 市民への人権教育の推進	全ての市民が一人ひとりの個性や多様な価値観を認め合うために、人権問題の解決に向け、関係部署とも協力しながら、人権に関する啓発活動に取り組みます。	生涯学習課 学校教育課 人権課
1-3 [図書館] こどもの読書活動推進と環境整備	読み聞かせボランティア団体や学校等教育機関、つどいの広場等と連携しながら、子どもたちが本に親しむ機会を確保します。また、未就学児を対象にした「にこにこ絵本バック」の拡充や、職員のおすすめ本のブックリストを作成するなど、本を選びやすい環境を整えます。	生涯学習課 学校教育課 子育て支援課
1-4 [図書館] 学校外での居場所の確保・居心地の良い図書館づくり	学習スペースの拡充やキッズスペースの設置等により、幅広い年齢層に向けた利用促進に努めます。また、閲覧スペースの充実や配架資料の見直しを行い、居心地の良い図書館づくりを目指します。	生涯学習課

施策・事業	概要	関連部署
Ⅰ－５ 施設の「縮充」の実施による効率化と機能充実の推進	老朽化した施設の統合・集約化を前提とした「縮充」を進め、サービスと機能を充実させた施設運営を行います。 公民館においては、各地区館で行っている活動を地区館の独自性がある活動は残しつつ、町の枠を超えた連携を行い、三豊市公民館の講座として充実を図ります。 図書館においては、開館日・開館時間を見直し、一定の利便性は確保しながら、規模や利用者数に応じた図書館運営を行い、市民ニーズを把握しながら資料を適正に収集・提供します。 なお、再編にあたっては、移動困難な方に対するサービスの提供を検討します。	生涯学習課
重要業績評価指標 (KPI)	生涯学習施設が、地域の学びや交流の中心的な役割を果たしていると回答した市民の割合	

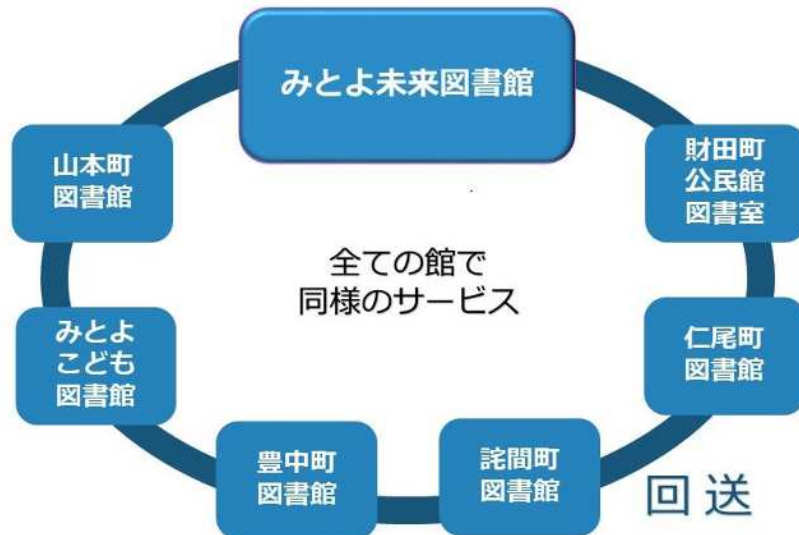
公民館活動のイメージ (現行)



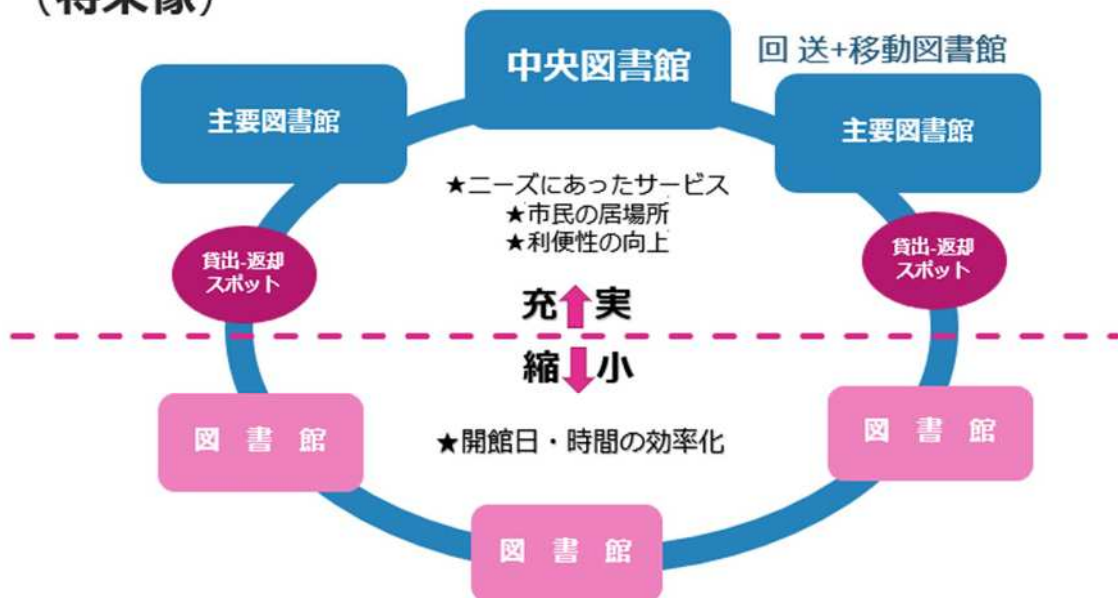
(将来像)



図書館運営のイメージ (現行)



(将来像)



施策 2：家庭教育力の向上

現 状

- 市内全小・中学校において学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールが導入されています。また、幼稚園では全園で家庭教育学級が開設されています。
- 「早寝早起き朝ごはん」運動の推進や、市子ども会育成連絡協議会主催の「子ども広場」を年3回開催し、子どもの体験活動として定着しています。
- PTA や子ども会育成者を対象とした研修等も継続して実施しています。

課 題

- 家庭教育学級は、幼稚園では全園実施されていますが、小・中学校では PTA 単位での実施に留まるなど、開催状況に偏りがあります。
- 家庭教育に関心がある市民は約半数いるにもかかわらず、行政の支援サービスについて「わからない」とする層が過半数を占めており、情報が必要な層に届いていません。
- 親子参加型イベントへの参加率が低迷しており、魅力的なプログラムの提供が課題です。

施策・事業の概要

本施策では、家庭教育の充実と地域連携による青少年の健全育成を一体的に推進します。

施策・事業	概要	関連部署
2-1 家庭教育学級の拡充と活動内容の充実	園長・校長会で開講への働きかけを継続し、学校の負担を軽減できる運営モデルの提示や成功事例の共有を強化します。子育てに関する知識の向上だけでなく、親子等での体験活動を積極的に取り入れます。	生涯学習課 学校教育課 保育幼稚園課
2-2 PTA の役割と連携強化	市 PTA 連絡協議会の研修において、幼・小・中の校種別の分科会やワークショップを開催し、子育てに関する課題を共有します。家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成を図ります。	生涯学習課

施策・事業	概要	関連部署
2-3 保護者の子育て意識の啓発	デジタル社会の進展に伴い、子どもたちが犯罪に巻き込まれないよう、スマホやインターネット、SNS等と正しく向き合うことの大切さや利用方法についての啓発活動の充実を図ります。	生涯学習課
2-4 子ども会活動の活性化	市子ども会育成連絡協議会主催の「子ども広場」では、高学年のリーダー育成を意図した活動を行います。また、会員数の少ない子ども会の統合を推進し、単位子ども会の活動の活性化を図るとともに、安全共済への加入率を高めます。	生涯学習課
2-5 青少年健全育成の推進	補導員の確保や「子ども SOS の家」の見直しなど、地域連携による安全体制の再構築を継続的に実施します。	少年育成センター
重要業績評価指標 (KPI)	市での家庭教育に関する講座やイベント、相談サービスが充実していると回答した市民の割合	

施策 3：文化・芸術活動の促進

現 状

○文化協会では、会報誌の発刊や HP 等での情報発信に加え、県展入賞・入選作品展や市内各文化祭などの開催、俳句大会や囲碁大会などの交流事業、子ども俳句教室など、より文化・芸術を身近に親しんでもらえるような活動も行っています。

○マリンウェーブでは、カルチャー講座や、ホール公演などの文化・芸術活動を実施しています。

課 題

- 文化協会会員の高齢化と減少が続いており、活動の裾野が狭くなっています。
- 地域での文化・芸術イベントへの不参加層が7割を超え、特に若年層の関心が低い傾向にあるため、若年層も巻き込んだ活動や、魅力の発信が必要です。

施策・事業の概要

本施策では、多世代間の市民交流を促すとともに、市民が参加できる文化・芸術事業を推進します。

施策・事業	概要	関連部署
3-1 放課後活動の選択肢の充実と魅力発信	活動団体と連携し、児童生徒に対する放課後活動の選択肢の充実を図るとともに、多世代間の交流による活動の活発化を推進します。また、SNS やデジタル媒体を駆使し、文化活動の魅力を若者目線で発信することで、活動の裾野を広げます。	生涯学習課 スポーツ振興課
3-2 多分野連携による市民交流の拡大	マリンウェーブや公民館などを活用した市民ニーズに応じた文化講座の開催や、各旧町、世代の垣根を超えた交流を推進することで文化・芸術を通じた地域活性化と「協働・共助」の促進を図ります。	生涯学習課
重要業績評価指標 (KPI)	地域での文化・芸術イベントに参加して「新しい発見があった」「創造力が刺激された」と感じると回答した市民の割合	

施策４：文化財の保護・継承

現 状

- 市内に数多くある貴重な文化財を保護するとともに、周辺環境も含めて活用していくことができるよう努めています。
- 市民ワークショップやアンケートを実施しニーズ把握に努めているほか、文化財保護協会や研究機関と連携しながら、未整理状態の文化財の整理や、文化財の活用に向けた活動を行っています。

課 題

- 多くの未整理・未調査状態の文化財を抱えており、それらを適切に保存し、活用していくために整理・調査が必要です。
- 文化財保護への関心が薄い層が関心層を上回っており、若年層を含めた多世代に対し、文化財の価値を伝える機会の提供と、主体的に保護に関わってもらう仕組みを構築する必要があります。

施策・事業の概要

本施策では、市民の協働により文化財の整理・活用を進め、次世代への確実な継承を図ります。

施策・事業	概要	関連部署
４－１ 市民協働による文化財の整理・活用	未整理・未調査状態の膨大な文化財について整理・調査を行い、適切に保存しつつ、市民目線を取り入れながら活用方法について検討していきます。また、地域と連携したボランティア活動を推進し、ともに文化財の整理を進めることで文化財の価値を共有し、文化財保護意識の向上につなげます。	生涯学習課

施策・事業	概要	関連部署
4-2 学校教育での文化財の活用と啓発強化	学校等と連携しながら、地域の文化財を実際に見て、触れることのできる体験学習を行うことで、身近な文化財への関心と地域への愛着を高めます。また、文化財の価値を伝えるための魅力的な広報を強化し、市民全体の文化財に対する関心度を向上させます。	生涯学習課 学校教育課
重要業績評価指標 (KPI)	地域の歴史や文化財について学ぶ機会があると思うと回答した市民の割合	

施策 5：学習成果の地域社会への還元と推進体制の強化

現 状

- 各地区の公民館活動において、自治会や学校と連携した防災行事や農業体験などの世代間交流事業が行われており、地域活動の活性化が図られています。
- 公民館主催講座から自主活動クラブへの移行事例が見られます。読み聞かせボランティア団体対象の研修を実施し、団体間交流とスキルアップを支援しています。

課 題

- 学習で得た知識を地域のために生かしたいという高い意欲があるにもかかわらず、「生かす機会がない」と感じている人が多く、構造的な課題があります。
- 学習成果が「自分たちの楽しみ」に留まり、その活動を地域貢献へと発展させることが難しく、自己完結する傾向があります。

施策・事業の概要

本施策では、市民の学習成果が地域課題の解決に結びつくよう、「市民力・経験を地域に生かす仕組み」の構築を推進します。

施策・事業	概要	関連部署
5-1 市民力・経験を地域に生かす仕組みの構築	各種講座やワークショップの参加者に対し、地域活動やボランティア活動への参加を促す具体的な情報提供やマッチングを行い、学習意欲と活動機会のギャップを解消する取組を推進します。	生涯学習課
5-2 推進体制の強化と「協働・共助」の基盤整備	行政と市民、学校、地域団体をつなぐ要となる人材の発掘・育成・配置など、「協働・共助」の基盤となる人材の確保に向けた取組の推進を図ります。また、市民活動を広く周知し、活動への参画を促す広報活動を積極的に展開します。	生涯学習課 学校教育課
重要業績評価指標 (KPI)	自分の学びや経験を地域のために生かしていると回答した市民の割合	

施策 6：市民スポーツ・レクリエーション活動の充実

現 状

- 「第 2 期三豊市スポーツ推進計画」に基づき、スポーツ協会会長杯をはじめとする各種大会や、スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験会、ウォーキングイベント、トップアスリートとの交流事業（ホームタウンデー等）を実施しています。
- 老朽化した施設の日常点検や修繕に努めるとともに、一部の施設では指定管理者制度を導入し、適切な運営管理を行っています。

課 題

- 子どもの運動頻度や市内のスポーツイベントへの参加者が減少傾向であり、多様なスポーツ機会の提供が課題です。
- 単なる運動の場だけでなく、多世代交流の場や地域の賑わい作りの場となるような機会を提供していくことが課題となっています。
- 多数の老朽化した社会体育施設があり、安全性の確保や、利用状況に応じた計画的な改修・維持管理が求められています。

（第 2 期三豊市スポーツ推進計画より）

施策・事業の概要

本施策では、令和 6 年度に策定された第 2 期三豊市スポーツ推進計画に準じ、施設の効率的な維持管理と、市民の多様なニーズに応じたスポーツ機会の創出を図ります。

施策・事業	概要	関連部署
6-1 各世代でのスポーツ・レクリエーションの推進	各世代のスポーツ・レクリエーションの実施率が向上するような機会の創出に努めるとともに、子どもたちが心身共に健康な生活を営むことができる資質や能力の育成を図ります。	スポーツ振興課

施策・事業	概要	関連部署
6-2 スポーツを通じた交流 の促進と地域活性化	幅広い世代にスポーツの楽しさや感動を与え、地域の賑わいづくりや交流を深めるため、地域密着型トップスポーツチーム等との連携強化や県外からの大会や合宿誘致による交流促進を図ります。	スポーツ振興課
6-3 スポーツ推進体制の充実と効率的な施設の維持管理	市内のスポーツ活動団体の充実や指導者の育成、市民スポーツを「ささえる」体制の充実を図ります。また、第2期三豊市スポーツ推進計画と連携し、計画的な施設の改修・維持管理を推進します。	スポーツ振興課
重要業績評価指標 (KPI)	多世代・地域交流ができる場としてスポーツ活動と回答した市民の割合	

第 6 章 計画の推進体制と進行管理

1. 推進体制

本計画の推進は、庁内関係部署間の横断的な連携に加え、市民、学校、NPO 法人、企業といった多様な主体との「協働」を基盤とします。

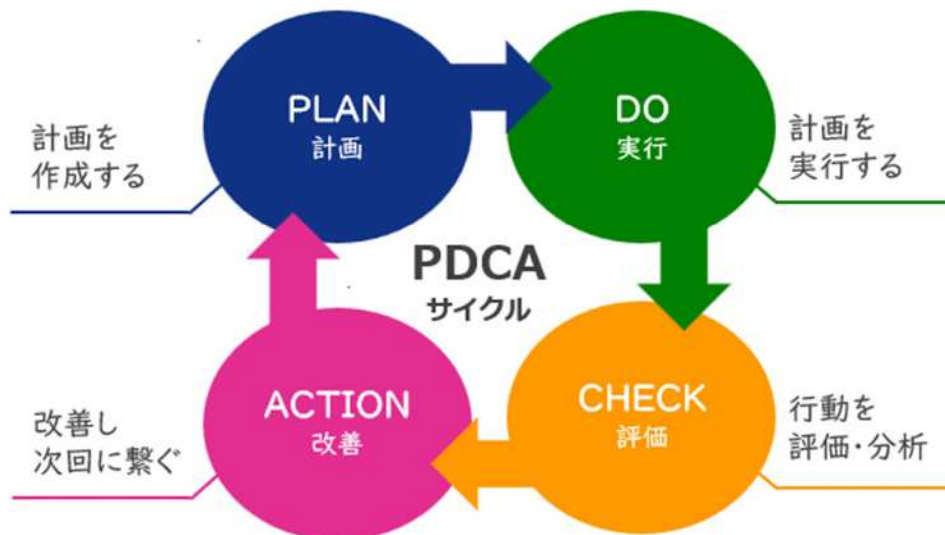
2. 進行管理と評価

本計画では、単に活動量（アウトプット）を測る従来の指標だけではなく、施策が市民や地域にもたらした「質的な成果」を重視します。そのため、最終評価指標は、施策の最終的な成果を示すアウトカム、そして市民の意識や行動、地域社会に起こった変革を示すインパクトを統合した指標として設定します。

（1）進行管理の枠組み

本計画の進行管理は、計画に掲げる施策が市民のニーズに応じて適切かつ効果的に実行されているか等について、PDCA サイクルによりその達成状況进行评估し、必要に応じて施策・事業の内容の見直しを行います。

PDCAサイクルによる計画の評価と改善



(2) 評価の実施とフィードバック

ア. 定期的な進捗確認

毎年度、各施策の実施状況について、アウトプット指標（活動量：講座の開催回数、施設の利用者数など）や、把握可能なアウトカム指標を中心に進捗を確認します。

イ. 最終評価

計画最終年度（令和12年度）には、市民アンケート調査の実施などにより、本計画で設定したインパクト指標（例：「地域活動への参画意欲向上度」や「市民満足度」など）に基づき、計画全体の質的成果を総合的に評価（総括評価）します。この評価結果は、5年間の取組が市民の意識や行動、地域社会にどのような変化をもたらしたかを検証し、次期（第5期）生涯学習推進計画策定のための重要な基礎資料とします。評価結果は、施策や事業の見直しの判断根拠として位置づけ、次期計画や残存期間の施策修正に反映します。

資料編

Ⅰ. 三豊市生涯学習推進計画策定委員会 委員名簿

選 出 区 分	氏 名	所 属	備考
学識経験を有する者	大村 隆史	香川大学地域人材共創センター	会長
市立小中学校の代表	森 孝夫	三豊市小中学校長会	
社会教育関係団体等の 代表	秋山 英城	三豊市子ども会育成連絡協議会	
	山地 好信	三豊市文化協会	
	橋詰 茂	三豊市文化財保護協会	
	渡邊 究	三豊市スポーツ協会	
	本田 進	三豊市老人クラブ連合会	
	行燈 淳子	三豊市母子愛育会	
	竹林 千鶴	図書館読み聞かせボランティア団体	
公民館の利用者の代表	大西 貢	公民館利用者代表	副会長

2. 計画策定の経緯

年	月日	全体スケジュール
令和7年	8月5日	★第1回計画策定委員会（委員出席者 6名） ・委嘱状交付、会長・副会長の選任、 策定方針・スケジュール確認、 アンケート調査案の検討及び決定
	9月11日 ～ 9月26日	★市民アンケート実施 対象：1,500人（三豊市在住の16歳以上） ・有効回収数 690件 有効回収率 46.0%
	11月28日	★第2回計画策定委員会（委員出席者 6名） ・アンケート結果報告、 第4期計画の素案・パブリックコメント計画の検討
令和8年	1月9日 ～ 2月9日	★パブリックコメント実施（提出人数 1名 提出件数3件）
	3月	★第3回計画策定委員会（書面・WEBにより協議） ・パブリックコメント結果報告、 最終案検討（計画内容の修正なし）
	3月26日	★教育委員会 ・計画の決定
	4月	★第4期 計画スタート（公表、事業開始）

第4期三豊市生涯学習推進計画

■発行 行：令和8年3月

■編集・発行者：三豊市教育委員会

〒767-8585香川県三豊市高瀬町下勝間2373-1

TEL0875-73-3135

FAX0875-73-3140

ホームページ <https://www.city.mitoyo.lg.jp/>